Wireless PC Card

無線LAN PCカード

LD-WL11/PCC

User's Manual

エレコム株式会社

ご注意

- ●本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- ●このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- ●このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- ●このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- ●このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード·サポートセンターまでご連絡ください。
- ●本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- ●本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- ●Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

11Mbps無線LAN PCカード

LD-WL11/PCC

User's Manual
ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

この度は、弊社ラニードの11Mbps無線LAN PCカード"LD-WL11/PCC"をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには、"LD-WL11/PCC"をコンピュータに導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様が"LD-WL11/PCC"を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは一部の表記を除いて"LD-WL11/PCC"を「本製品」と表記しています。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

●このマニュアルで使われている記号1

記　号	意　　味
注意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
MEMO	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
Esc A	キーボード上のキーを表わします。

安全にお使いいただくために

Laneed

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

表示	内容
⚠ 警 告	**この表示の注意事項を守らないと、火災･感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。**
⚠ 注 意	**この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。**

⚠ 警 告

本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体と周辺機器の電源を切り、電源プラグをACコンセントから抜いてからおこなってください。
電源プラグを抜かずに作業をすると火災や感電、故障の原因になります。

小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業をおこなわないでください。また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。
けがや感電をしたり、部品を飲み込んだりする危険性があります。

本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。

本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

本製品を取り付けたコンピュータ本体から煙やへんな臭いがしたときは、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

本製品を取り付けたコンピュータ本体に、水などの液体や異物が入った場合は、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

⚠ 注 意

コンピュータ本体のカバーや本製品の取り付け、取りはずしのときは慎重に作業をおこなってください。
強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。

本製品の取り付け、取りはずしのときは、本製品に触れる前に金属性のもの(スチールデスク、ドアのノブなど)に手を触れて、静電気を除去してから作業をおこなってください。
静電気は本製品の破損の原因になります。

本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を次のようなところで使用しないでください。
・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
・直射日光のあたるところ
・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
・静電気の発生するところ、火気の周辺

長期間、本製品を取り付けたコンピュータ本体を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

導入の手順フロー

Laneed

Windows XPの場合	その他のOSの場合

本製品のドライバおよび設定ユーティリティには、標準ドライバ(Mフレッツを利用しない)とMフレッツ用ドライバの2種類があります。ご使用になる環境に合わせて該当ページをお読みください。

パッケージの内容を確認します。➡*P8*

▼

作業の前に注意事項をお読みください。➡*P2～3*

▼

本製品をPCカードスロットに取り付けます。➡*P14*

▼

プラグ&プレイ機能により、本製品が検出されます(Windows NT 4.0を除く)

▼

Windows XPの場合	その他のOSの場合
本製品に付属のドライバディスクをドライブにセットし､メッセージに従いドライバをインストールします。	本製品に付属のドライバディスクをドライブにセットし､メッセージに従いドライバをインストールします。
▼	▼
無線LANのユーティリティをインストールします。	ご使用の環境に合わせて、サービス、プロトコルなどのネットワーク設定をおこないます。※
▼	▼
設定ユーティリティで必要事項を設定し、動作確認をします。	無線LANのユーティリティをインストールします。
▼	▼
ご使用の環境に合わせて、サービス、プロトコルなどのネットワーク設定をおこないます。	設定ユーティリティで必要事項を設定し、動作確認をします。

※この内容は設定例です。実際にご使用になるネットワーク環境に合わせて設定してください。

導入後は、ユーザ登録(➡*P9参照*)をおこなってください。

もくじ

Laneed

Chapter 1 概要編

Chapter 2 標準ドライバ編

Chapter 3　Mフレッツ用ドライバ編

Chapter 4　付録編

Chapter 1

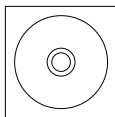
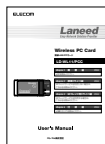
概　要　編

本製品には、通常使用する標準ドライバとMフレッツ用ドライバの2種類が添付されています。概要編はどちらのドライバをご使用になる場合も、必ず読んでいただきたいとが記載されています。

1 パッケージ内容の確認

本製品のパッケージには次のものが入っています。作業を始める前に、すべての商品が揃っているか確かめてください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

●11Mbps無線LAN PCカード
LD-WL11/PCC

●ドライバディスク
(CD-ROM　1枚)

●ユーザーズマニュアル　1冊
(このマニュアルです)

●ユーザ登録カード　1枚

●保証書　1枚

2 製品の保証とユーザ登録

製品の保証とサービス

本製品には保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。
・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

123ページ「修理の依頼」をお読みください。

●その他のご質問などに関して

123ページ「サポートサービスについて」をお読みください。

ユーザ登録

製品の導入が完了したらユーザ登録をおこなってください。お客様のユーザ登録は、インターネットからのオンライン登録または付属のハガキで登録することができます。

●オンラインでの登録

弊社ホームページから登録が可能です。
ホームページアドレス：http://www.elecom.co.jp

●付属のユーザ登録カードでの登録

必要事項をご記入の上、ご投函ください。品番とシリアル・ナンバーは控えておいてください。裏面のアンケートにもお答えください。ご意見は、今後の製品開発などに役立てていきます。

3 本製品の概要について

Laneed

本製品の特長

●11Mbpsの高速通信と高い拡張性

IEEE802.11b準拠、10BASE-Tよりも高速な11Mbpsの通信速度です。無線LANカードだけを使用して通信するアドホック・モードと、アクセスポイントを使用するインフラストラクチャ・モードに対応します。

●ノイズに強いDS-SS(直接拡散スペクトラム拡散)方式を採用

通信方式にはDS-SS方式を採用しています。この方式は、特定の周波数成分がノイズで通信できなくても、別の周波数成分を使って通信することができるノイズに強い通信方式です。

●ESS IDやWEPによるセキュリティ機能

特定のグループを設定するESS ID機能をはじめ、データそのものを暗号化するWEPにも対応します。WEPを利用すると第三者に盗聴されてもそのままではデータを見ることができないようにすることが可能です。WEPは40ビット互換の64ビットと128ビットに対応します。

●Mフレッツ対応ドライバを添付

外出先で無線LANが利用できる(NTT東日本(東日本電信電話株式会社)のMフレッツサービスに対応したドライバとユーティリティを添付しています。

➡Mフレッツ対応ドライバについては79ページからをお読みください。

●導入しやすい簡単設定ユーティリティ

通信モードの設定、セキュリティ情報の設定などができる設定ユーティリティを添付しています。高度な知識がなくても、簡単に設定できるようになっています。

●プラグ&プレイでインストールも簡単

本製品を取り付け後、コンピュータ本体の電源を入れると、自動的にドライバインストールのウィザードが起動します。メッセージに従えば、簡単にドライバがインストールできます。

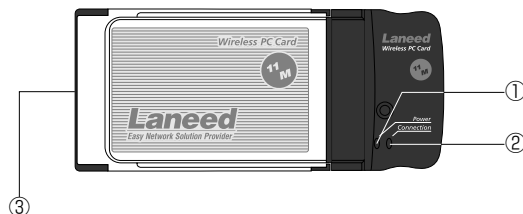
※Windows 98ではOSのCD-ROMが必要なことがあります。

本製品の動作環境

本製品は次の動作環境に対応しています。

対応機種	PC/AT互換機(DOS/Vマシン)およびNEC PC98-NXシリーズでPCMCIA TypeⅡ準拠のPCカードスロットを持つ機種(自作機は除く)
対応OS	Windows XP, Windows Me, Windows 98, Windows 2000 Windows NT 4.0 (Mフレッツ用ドライバは非対応)

※最新の動作環境は弊社ホームページ(http://www.elecom.co.jp)でご覧ください。

各部の名称とはたらき

①	Powerランプ	PCカードスロットから電源が供給されているときに点灯します。
②	Connectionランプ	接続先が存在する場合に点灯します。接続先が見つからない場合は点滅します。
③	68ピンコネクタ	コンピュータのPCMCIA TypeⅡ対応のPCカードスロットへ差し込むコネクタです。コネクタを指で触れないように注意してください。

※MACアドレスは裏面に記載されています。

4 無線LANの基礎知識

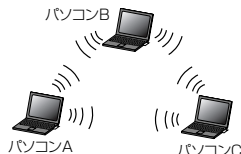
Laneed

本製品を使った無線LANの基本的なことについて説明します。

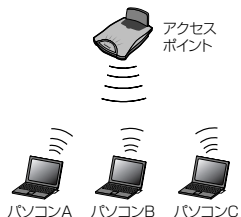
無線LANの2つの通信モード

無線LANには2つの通信モードがあります。ひとつは、無線LANアダプタだけでネットワークを構成する「アドホック･モード」です。無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接電波をやり取りしてデータを交換できます。もうひとつのモードは、「アクセスポイント」と呼ばれる中継装置を使ってデータをやり取りする「インフラストラクチャ･モード」です。

●アドホック・モード(AdHoc Mode)

パソコン同士が直接電波をやり取りします。ノートパソコン数台だけでデータのやり取りをするのに適しています。各パソコンは対等の扱いになるピア・ツー・ピア接続になります。

●インフラストラクチャ・モード(Infrastructure Mode)

アクセスポイントを経由してパソコン同士を接続します。アクセスポイントにあるLANポートを使うことで有線LANと接続することができます。有線LAN上にルータがある場合は、アクセスポイントを経由して無線LANの各パソコンからもインターネットに接続できます。

また、弊社のアクセスポイントの場合、複数のアクセスポイントを設置することで、通信エリアを拡大できるだけでなく、ネットワークに接続したまま移動したときに、自動的に電波状態のよいアクセスポイントに切り替わるマルチチャンネル・ローミング機能が利用できます。

無線LANのセキュリティ機能

無線LANは電波でデータを送受信するので、知らない間にネットワークに不正アクセスされたり、電波を盗聴される可能性があります。そこで、無線LANカードおよびアクセスポイントには不正アクセスや盗聴を防止するためのセキュリティ機能を備えています。

●ESS ID(Extended Service Set ID)

隣接した場所で同じ製品または同じ帯域を利用する無線LANがあると、無線を使ってやり取りしているデータが混信する恐れがあります。そこで他のネットワークと自分たちのネットワークを区別するためにESS IDと呼ばれる無線LANのグループ名称を決めることができます。同じ無線LANのグループに所属するコンピュータは同じESS IDを設定することで、他のESS IDを持った無線LANグループとは区別され、混信や不正アクセスなどを防ぐことができます。

●MACアドレスフィルタリング

ネットワークアダプタには、世界中に同じ番号が存在しない「MACアドレス」と呼ばれる固有の番号が割り当てられています。そこでアクセスポイントに無線LANアダプタのMACアドレスを登録することで、そのMACアドレスを持つ無線LANアダプタから無線LANへのアクセスの許可/不許可を設定することができます。MACアドレスは製品の裏ラベルなどに記載されています。

●WEP(Wired Equivalent Privacy)

ESS IDやMACアドレスフィルタリングは、不正アクセスを防止するために役立つ機能ですが、それだけでは第三者に意図的に盗聴される恐れがあります。そこで、さらにセキュリティを高めるためにデータそのものを暗号化するWEPという機能があります。WEPでは40・64・128ビットの暗号化に対応した16進数やASCII文字を暗号キーとして利用します。WEPを使用すると暗号キーを知っている利用者だけが受信したデータの暗号を元に戻すことができます。たとえ第三者が電波を盗聴しても暗号キーがわかなければ、データを解読することはできません。

5 本製品の取り付け/取りはずし

Laneed

本製品の接続方法について説明します。本製品はホットプラグ機能に対応しますので、コンピュータ本体の電源を入れたまま接続することもできます(Windows NT 4.0は不可)。PCカードの取り付け/取りはずし方法は、本体の機種によって異なりますので、お手持ちのコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルの該当ページも参考にしてください。

取り付け前に確認する

ご使用になるコンピュータのPCカードスロットが正常に動作しているかを確認します。

1 **デバイスマネージャを表示します。**

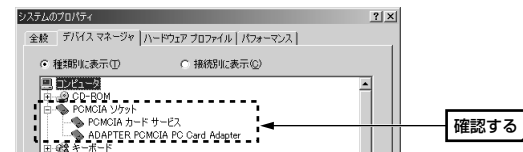
●Windows XPの場合

①[スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
②マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
③【ハードウェア】タブを選択し、デバイスマネージャ ボタンをクリックします。

●Windows Me/98/2000/NT 4.0の場合

①デスクトップの[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
②マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
③Windows Me/98では〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【デバイスマネージャ】タブを選択します。
Windows 2000では【ハードウェア】タブを選択し、デバイスマネージャ ボタンをクリックします。

2 **「PCMCIAソケット(XPはアダプタ)」の + をクリックし、PCMCIAソケットの内容を表示します。(!)や(×)のマークがコントローラに付いていないことを確認します。**

Windows Meの画面例

※画面は一例です。表示されるコントローラの名称はお使いのコンピュータによって異なります。

(!)や(×)のマークがコントローラ名に付いている場合は、PCカードスロットが正常に動作していません。コンピュータ本体のマニュアルをお読みになり正しく動作するように設定してください。

3 **正常に動作していることを確認できれば、OK ボタンをクリックします。**

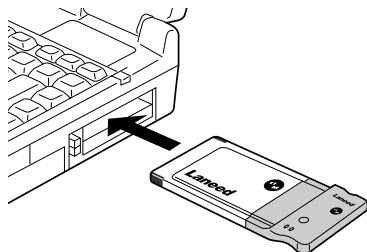
取り付けの方法

必ずコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルも併せて読みながら、取り付けてください。

本製品の取り付けを始める前に、必ず金属に触れて身体の静電気を取り除いてください。

1 **コンピュータ本体の電源が切れていることを確認します。**

・本製品はWindowsの「ホットプラグ(活線挿抜)」に対応していますので、Windows NT 4.0以外のOSをご使用の場合は、コンピュータの電源を入れたまま本製品を差し込むこともできます。

2 コンピュータのPCカードスロットに、本製品の68ピンコネクタを差し込みます。

・表裏を間違えないように注意してください。

カードを差し込むとき、表裏を間違えると本製品のコネクタやコンピュータ側のコネクタを破損する恐れがあります。無理に差し込まないように注意してください。

3 新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

このあとは、それぞれのOSに合わせてドライバをインストールします。

●標準ドライバ(Mフレッツを利用しない)をインストールする場合

Windows XP➡20ページ　　Windows Me➡33ページ
Windows 98➡36ページ
Windows 2000➡47ページ　　Windows NT 4.0➡57ページ

●Mフレッツ対応ドライバをインストールする場合

Windows XP➡81ページ　　Windows Me➡87ページ
Windows 98➡92ページ　　Windows 2000➡98ページ

※Mフレッツ対応ドライバの場合はいずれのOSにインストールするときでも、80ページ「ドライバインストール時の注意」を必ずお読みください。

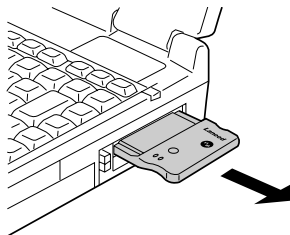
取りはずしの方法

コンピュータのPCカードから本製品をイジェクトする方法は、コンピュータ本体によって異なりますので、コンピュータ本体のマニュアルの「PCカードスロット」に関するページを参照してください。なお、Windows NT 4.0以外のOSをご使用の場合はホットプラグ機能を利用して、コンピュータの電源を入れたまま、本製品を取りはずすときはPCMCIAソケットから切り離すための操作をおこなう必要があります。

必ずコンピュータ本体やカードスロットのマニュアルも参照しながら取りはずしてください。

本製品の取りはずすときは、必ず金属に触れて身体の静電気を取り除いてください。

コンピュータ本体の電源が切れた状態での取りはずし

コンピュータ本体のマニュアルの説明に従って、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。

コンピュータ本体の電源が入った状態での取りはずし

Windows NT 4.0では電源が入ったまま取りはずすことはできません。

1 Windows画面の右下にあるタスクトレイの をダブルクリックします。

・OSの種類によってアイコンのデザインが多少異なります。PCカードのアイコンをダブルクリックしてください。

2 「Air@Hawk/LD-WL11/PCC Wireless PC Card」を選択し、停止 ボタンをクリックします。

・ご使用のコンピュータにより、表示されるソケット数などの内容が異なります。
・Mフレッツ用ドライバでは「(M Flet's)」がアダプタ名の後に表記されています。

3 取りはずし可能のメッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。
・このあとは、コンピュータ本体のマニュアルの説明に従って、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。

Chapter 2

標準ドライバ編

本製品でNTT東日本(東日本電信電話株式会社)の「Mフレッツ」サービスを利用されない場合は、こちらの標準ドライバと設定ユーティリティを使用します。
このChapterでは、ドライバと設定ユーティリティのインストール方法、無線LANでの接続方法、設定ユーティリティの使い方が記載されています。

Mフレッツでご使用になる場合は
Chapter 3「Mフレッツ用ドライバ編」をお読みください。

1 Windows XPでのセットアップ

はじめて使用するときはドライバのインストール作業が必要です。Windowsを起動した状態で本製品をコンピュータに接続すると、Windowsのシステムがインストールメッセージを表示します。付属のCD-ROMディスクをご用意のうえ、手順に従ってドライバをインストールしてください。

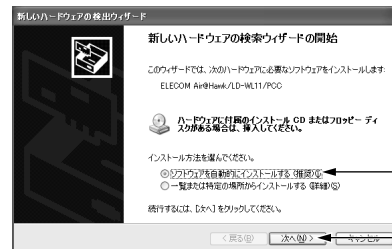
本製品でNTT東日本(東日本電信電話株式会社)の「Mフレッツ」サービスをご利用になる場合は、Mフレッツ対応ドライバのインストールが必要です。79ページChapter3「Mフレッツ用ドライバ編」をお読みください。

ドライバのインストール

1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windowsを起動します。

2 本製品をPCカードスロットに差し込むと、新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

3 付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

4 「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

MEMO ご使用の環境によっては、CD-ROMディスクをドライブに入れると自動的に手順 4 の画面に進む場合があります。

5 ドライバの選択画面が表示された場合は、「Air@Hawk LD-WL11/PCC PC Card」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

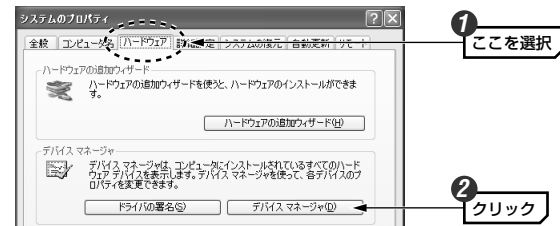
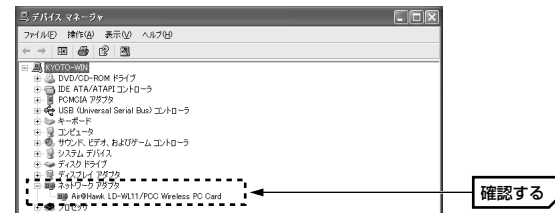
「(M Flet's)」と表示されたドライバはMフレッツ対応ドライバです。間違って選択しないように注意してください。

6 下記のような画面が表示された場合は、[続行] ボタンをクリックします。ドライバのインストールが開始されます。

・このドライバについては、弊社にてWindows XP上で正常に動作することを検証しております。

7 しばらくすると、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、[完了] ボタンをクリックします。

8 次の手順でデバイスマネージャを表示します。

①[スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
②マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
③【ハードウェア】タブを選択し、[デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。

9 「ネットワークアダプタ」の [+] をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card」が表示されることを確認します。

・他の名称が表示されたり×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。116ページ「こんなときは」をお読みください。

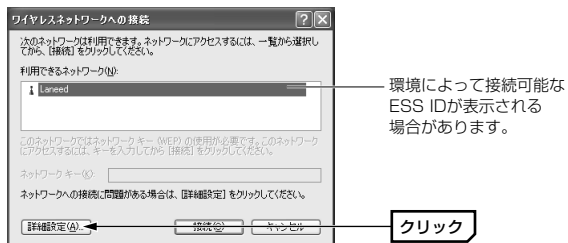
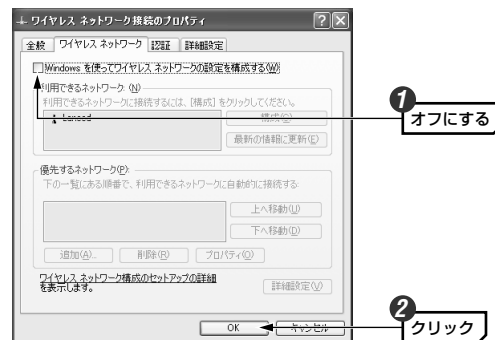
10 続いて、Windows XPのワイヤレスネットワークの設定を変更します。次の「Windows XPのワイヤレス設定を無効にする」へ進みます。

Windows XPのワイヤレス設定を無効にする

本製品に付属の設定ユーティリティを利用できるようにWindows XPの設定を変更します。通常は本製品の設定ユーティリティを使用するために、Windows XPのワイヤレス設定は無効にしてください。

MEMO 本製品はWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続機能を利用することもできます。そちらを利用する場合はこの作業は不要です。Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続機能の設定方法については、Windows XPの設定に関する説明書をお読みください。

1 デスクトップ画面の右下のタスクトレイにある[ワイヤレスネットワーク]アイコンをクリックします。この時点では、まだ無線LANに接続できないために×マークが付いている場合があります。

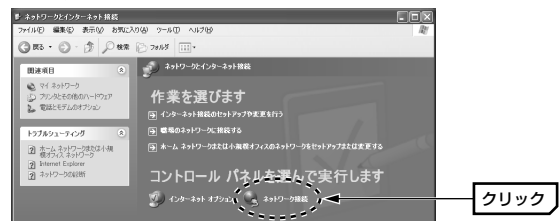
2 〈ワイヤレスネットワークへの接続〉画面が表示されますので、詳細設定 ボタンをクリックします。

3 【ワイヤレスネット】タブにある「Windowを使ってワイヤレス ネットワークの設定を構成する」のチェックボックスをオフにし、OK ボタンをクリックします。

これでWindows XPへのドライバのインストールは完了です。このあとは59ページ「無線LANの基本設定」へ進んでください。

注意 このあとのWindows XPでのネットワーク設定等の説明については、無線LANが正常に動作していることを確認してからお読みください。

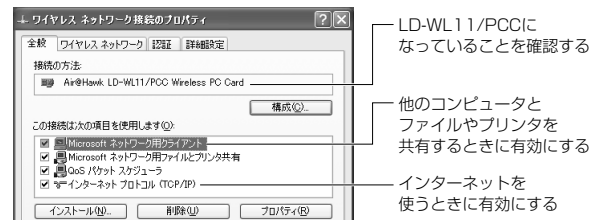
サービスとプロトコルの確認

無線LANの設定が終われば、ネットワーク設定の確認と設定をおこないます。LANではコンピュータにアダプタを取り付けただけではデータのやり取りをすることはできません。データをやり取りしたり、インターネットに接続するために必要なサービスとプロトコルを設定する必要があります。ここでは小規模なネットワークでデータのやり取りやインターネットに接続するための一般的な設定例を説明します。

1 [スタート]→[コントロールパネル]を選択します。次に、コントロールパネルにある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

2 〈ネットワークとインターネット接続〉画面で「ネットワーク接続」をクリックします。

3 「ワイヤレス ネットワーク接続」を選択し、[ファイル]メニュー→[プロパティ]を選択します。

・【ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ】画面が表示されます。

4 お使いのネットワーク環境に応じて、必要なサービスやプロトコルが有効になっているか確認します。

・「接続の方法」に「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card」と表示されない場合、ドライバが正常にインストールされていない可能性があります。インストールをやり直してください。

MEMO 一覧に表示されていないプロトコルやサービスを使う場合は、インストール ボタンをクリックし、メッセージに従って操作します。

MEMO DHCPサーバ機能がない環境でTCP/IPを使用するときは
インターネットに接続するために使用するルータなどには、IPアドレスを自動的にネットワーク機器に割り当てるDHCPサーバ機能があります。しかし、DHCPサーバ機能を使用しない場合や特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、次の手順で設定してください。

①「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、 プロパティ ボタンをクリックします。
②「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。

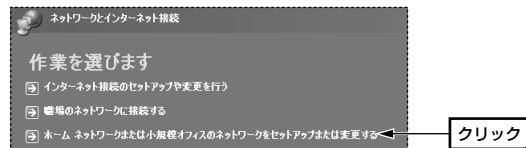
5 **【ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ】画面の OK ボタンをクリックします。**

これで、サービスとプロトコルの確認ができました。

ネットワークの設定例

ここではWindows XPを使用してLAN上の他のコンピュータとファイルやプリンタを共有するための設定例について説明しています。この設定は無線LANが正常に動作していることを確認してからおこなってください。無線LANが正常に動作する前に設定することはできません。また、インターネットに接続するための設定についてはお使いのルータなどの取扱説明書をご覧ください。

1 **[スタート]→[コントロールパネル]を選択します。次に、コントロールパネルにある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。**

2 **「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックします。**

3 **ネットワークセットアップウィザードの〈ネットワークセットアップウィザードの開始〉画面が表示されたら、 次へ ボタンをクリックします。**

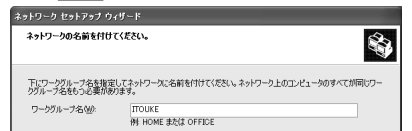
4 **〈続行する前に...〉画面の説明を読み、ネットワークに接続するための準備ができているか確認し、 次へ ボタンをクリックします。**

5 **〈接続方法を選択してください。〉画面で、実際にご使用の環境に合わせて接続方法を選択し、 次へ ボタンをクリックします。**

MEMO ご使用のネットワークがインターネットに接続していない場合は、「その他」を選択し、 次へ ボタンをクリックします。
この場合、〈ほかのインターネット接続の方法･･･〉画面が表示されますので、「インターネットに接続していないネットワークに属している」を選択し、 次へ ボタンをクリックします。そのあと手順 6 へ進みます。

6 **〈このコンピュータの説明と名前を入力してください〉画面が表示されたら、[コンピュータの説明]と[コンピュータ名]を入力し、 次へ ボタンをクリックします。**

コンピュータの説明	コンピュータを所有している部署や設置場所の名前など、コンピュータに関する簡単な説明文を入力します。
コンピュータ名	このコンピュータに付ける名前を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。

7　〈ネットワークの名前を付けてください〉画面で、[ワークグループ名]を入力し、 次へ ボタンをクリックします。

ワークグループ名	このコンピュータを接続するネットワークのグループです。プリンタやファイルを共有する同じネットワーク上のコンピュータには、すべて同じワークグループ名をつけます。

8　〈ネットワーク設定を適用する準備ができました〉画面で設定を確認し、 次へ ボタンをクリックします。

9　〈もう少しで完了です〉画面が表示されます。ご使用になっている環境に合わせてオプションを選択し、 次へ ボタンをクリックします。

・「ネットワークセットアップディスク」を作成すると、そのディスクを使って他のコンピュータのネットワーク設定を簡単におこなうことができます。
・よくわからない場合は「ほかのコンピュータでウィザード・・・」を選択してください。

10　〈ネットワークセットアップウィザードの完了〉画面で、 完了 ボタンをクリックします。

11　再起動を促すメッセージが表示されたら、 はい ボタンをクリックします。

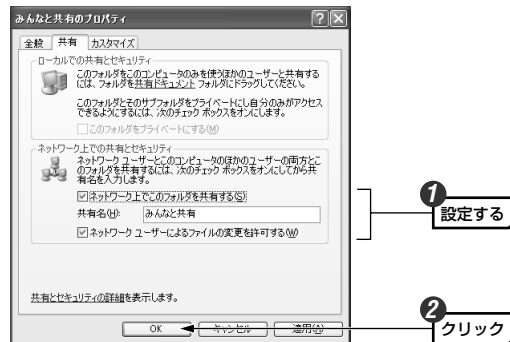
■　コンピュータが再起動し、ネットワークの設定が有効になります。

共有フォルダの設定

ネットワーク上の他のコンピュータから、このコンピュータのフォルダにアクセスできるようにするには、フォルダごとに共有とセキュリティの設定をする必要があります。

MEMO　マイコンピュータには、「共有ドキュメント」という共有フォルダが自動的に作成されます。ここでは任意に設定したフォルダを共有化する説明をしてます。

1　共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[共有とセキュリティ]を選択します。

2　[ネットワーク上での共有とセキュリティ]の項目を設定し、 OK ボタンをクリックします。

ネットワーク上でこのフォルダを共有する	他のコンピュータからこのフォルダにアクセスできるようにするには、この項目を有効にします。
共有名	他のコンピュータでは、ここで設定したフォルダ名が表示されます。
ネットワークユーザーによるファイルの変更を許可する	他のコンピュータのユーザがこのフォルダ内のファイルを変更できるようにするには、この項目を有効にします。

これで、他のコンピュータからこのフォルダにアクセスできるようになりました。

MEMO 同じようにLAN上のコンピュータに接続されたプリンタを共有することもできます。
①プリンタが接続されたコンピュータで[スタート]→[コントロールパネル]を選択し、コントロールパネルにある「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
②「プリンタとFAX」をクリックします。
③共有したいプリンタのアイコンを右クリックし、メニューから[共有]を選択します。

2 Windows Meでのセットアップ

Laneed

本製品をWindows Meで使用できるようにドライバをインストールします。

1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windowsを起動します。

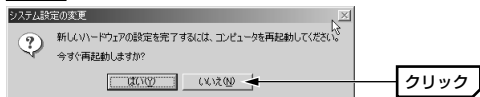
2 本製品をPCカードスロットに差し込むと、新しいハードウェアが見つかったことを知らせるメッセージが表示されます。

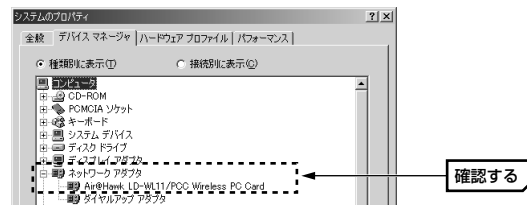
3 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

4 「適切なドライバを自動的に検索する」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

・インストールが自動的に始まります。

5 インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、完了 ボタンをクリックします。

6 コンピュータを再起動するようにメッセージが表示されます。ここでは、いいえ ボタンをクリックします。

7 デスクトップ画面の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

8 〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【デバイスマネージャ】タブにある「ネットワークアダプタ」の + をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card」が表示されることを確認します。

・本製品が見あたらなかったり、×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。116ページ「こんなときは」をお読みください。

9 Windowsを再起動します。

MEMO

●ネットワークアダプタに「ダイヤルアップアダプタ」が表示されている場合がありますが、これはアナログモデム/TA用でLANアダプタとは関係ありません。

●再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。[ユーザー名]は必ず入力します。必要であれば[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これでWindows Meへの標準ドライバのインストールは完了です。このあと59ページ「設定ユーティリティのインストール」へ進んでください。

MEMO

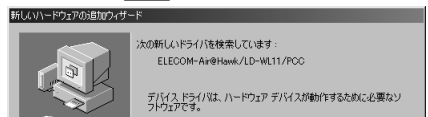
インターネットへの接続やネットワークで共有したデータのやり取りなどには、ご使用の環境に合わせたネットワーク設定が必要です。40ページより「ピア・ツー・ピアによるネットワーク設定」に設定例を掲載しています。

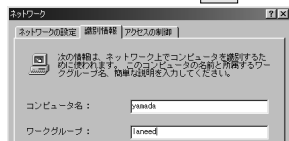
3 Windows 98でのセットアップ

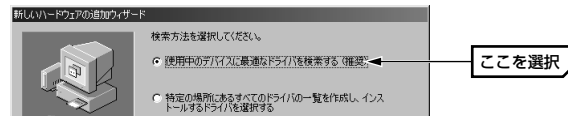
Laneed

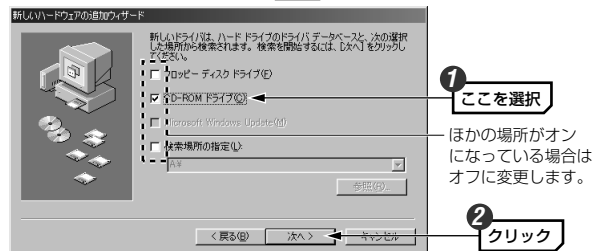
本製品をWindows 98で使用できるようにドライバをインストールします。

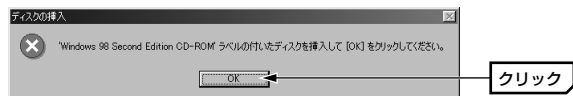
1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windowsを起動します。

2 本製品をPCカードスロットに差し込むと、ドライバを検索する画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。

MEMO Windows 98でコンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたとき
※Windows 98 Second Editionでは表示されません。

①[コンピュータ名]の入力を促すメッセージが表示されますので [OK] ボタンをクリックします。
②【識別情報】タブで[コンピュータ名]と[ワークグループ名]を入力してください。入力が終われば [OK] ボタンをクリックします。

コンピュータ名	インストール中のコンピュータに与える名称を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ	インストール中のコンピュータが接続されるネットワークのグループ名をつけます。同一ネットワーク上のコンピュータのワークグループ名はすべて同じにする必要があります。

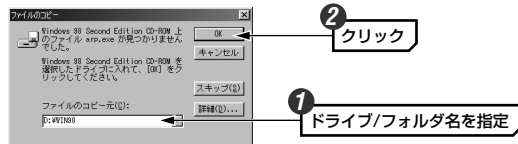
3 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

4 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

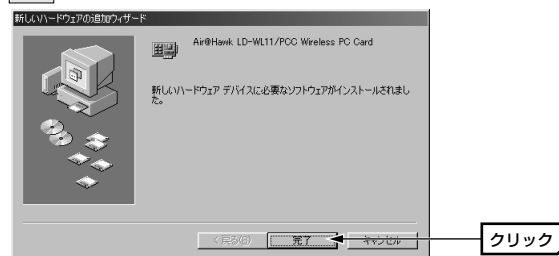
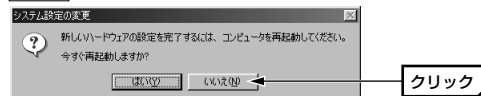
5 「CD-ROMドライブ」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

6 ドライバのある場所が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。

7 お使いの環境によっては、Windows 98のCD-ROMを挿入するようにメッセージが表示されます。

・Windows 98には「Windows 98 CD-ROM」と「Windows 98 SECOND EDITION CD-ROM」がありますのでご注意ください。
・CD-ROMディスクをドライブに挿入し、OK ボタンをクリックします。

MEMO 次のような画面が表示された場合はCD-ROMディスクを入れたドライブの「WIN98」フォルダを指定し、OK ボタンをクリックします。

・ドライブ名のあとに必ず「WIN98」ディレクトリを指定します。
(例)CD-ROMドライブがDドライブの場合(小文字でも可)

```
D:¥WIN98
```

MEMO すでにインストールされているファイルのほうが新しい場合、そのファイルを上書きするか確認のメッセージが表示されます。この場合は、日付の新しいファイルをそのまま使用するようにしてください。

8 インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、完了 ボタンをクリックします。

9 コンピュータを再起動するようにメッセージが表示されます。ここでは、いいえ ボタンをクリックします。

10 34・35ページの手順 7 8 を参考に、本製品が正常に登録されていることを確認します。

11 Windowsを再起動します。

MEMO 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。[ユーザー名]は必ず入力します。必要であれば[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これでWindows 98への標準ドライバのインストールは完了です。このあと59ページ「設定ユーティリティのインストール」へ進んでください。

MEMO インターネットへの接続やネットワークで共有したデータのやり取りなどには、ご使用の環境に合わせたネットワーク設定が必要です。40ページより「ピア・ツー・ピアによるネットワーク設定」に設定例を掲載しています。

4 ピア・ツー・ピアでの設定

Laneed

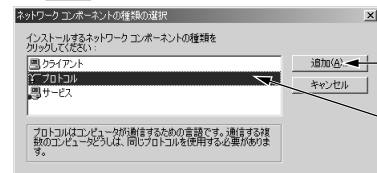
Windows Me/98の小規模ネットワークでよく利用されるピア·ツー·ピア環境の設定例を説明します。画面例はWindows Meを使用していますがWindows 98でもほとんど同じです。

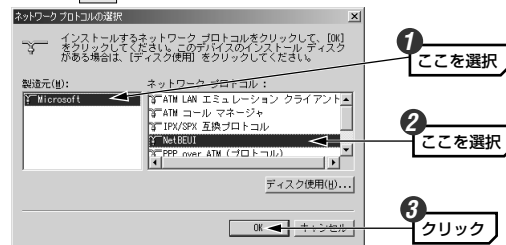
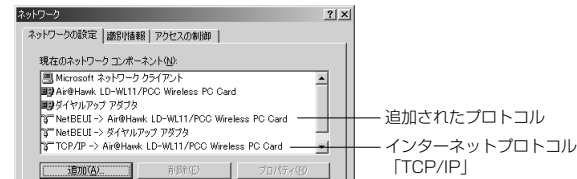
1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある「ネットワーク」をダブルクリックします。**

・〈ネットワーク〉画面が表示されます。

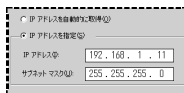
・Windows Meの場合よく使うコントロールパネルだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると「ネットワーク」が表示されます。

2 **【ネットワークの設定】タブにある 追加 ボタンをクリックします。**

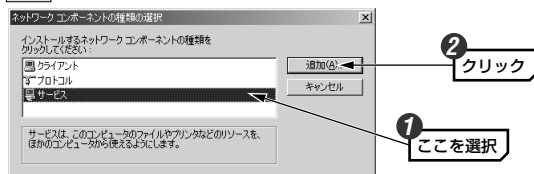
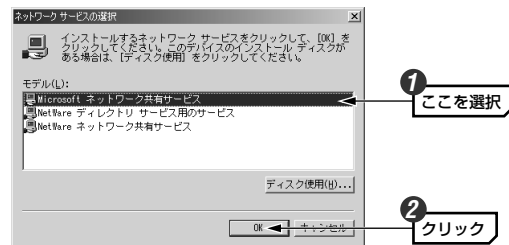
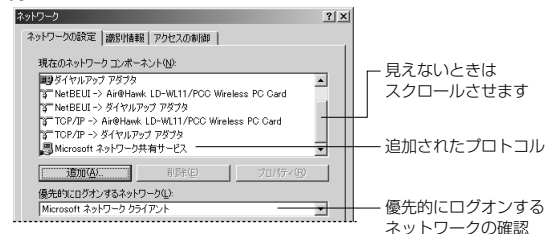
3 **インストールするネットワークコンポーネントとして「プロトコル」を選択し、 追加 ボタンをクリックします。**

・〈ネットワークプロトコルの選択〉画面が表示されます。

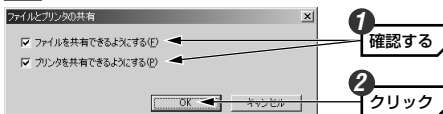
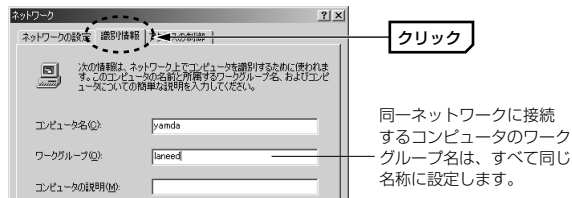
4 **製造元で「Microsoft」を、ネットワークプロトコルで「NetBEUI」を選択します。 OK ボタンをクリックします。**

5 **プロトコルが追加されたことを確認します。また、インターネットに接続する場合は、「TCP/IP」プロトコルがインストールされていることを確認します。**

・TCP/IPプロトコルがない場合は、手順 **2** ～ **4** を参考にして追加します。

MEMO DHCPサーバ機能がない環境でTCP/IPを使用するときは
インターネットに接続するために使用するルータなどには、IPアドレスを自動的にネットワーク機器に割り当てるDHCPサーバ機能があります。しかし、DHCPサーバ機能を使用しない場合や特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、次の手順で設定してください。

①「TCP/IP->Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card」を選択し、プロパティボタンをクリックします。
②「IPアドレスを指定」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。

6 もう一度、〈ネットワーク〉画面で 追加 ボタンをクリックします(手順 2 参照)。

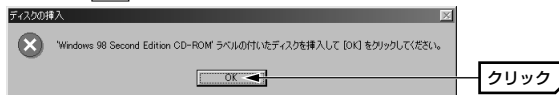
・〈ネットワークコンポーネントの種類の選択〉画面が表示されます。

7 インストールするネットワークコンポーネントとして「サービス」を選択し、追加 ボタンをクリックします。

8 モデルとして「Microsoftネットワーク共有サービス」を選択し、OK ボタンをクリックします。

9 サービスが追加されたことを確認します。また、[優先的にログオンするネットワーク]が「Microsoftネットワーククライアント」になっていることを確認します。

10 ファイルとプリンタの共有 ボタンをクリックします。

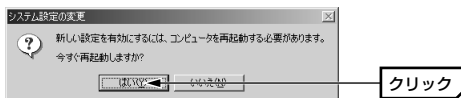
11 「ファイルを共有・・・」「プリンタを共有・・・」の両方を有効(☑)にし、OK ボタンをクリックします。

・チェックボックスをクリックすると有効/無効が切り替わります。

12 【識別情報】タブをクリックします。

13 内容を確認し、正しければ OK ボタンをクリックします。

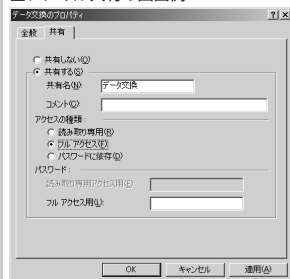
・変更が必要な場合は[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力します。
・項目の意味については、36ページの「MEMO」を参照してください。

14 ディスクの挿入を促すメッセージが表示されたときは、Windowsのディスクを挿入し、OK ボタンをクリックします。

・表示されたメッセージに対応したOSのディスクを入れます。
・Windows 98には「Windows 98 CD-ROM」と「Windows 98 SECOND EDITION CD-ROM」がありますのでご注意ください。

MEMO ディスクを挿入したドライブを指定する画面が表示されたときは、38ページの手順 7 の「MEMO」を参考に指定します。ドライブ名のあとに、Windows 98なら"WIN98"ディレクトリを、Windows Meなら"WIN9x"ディレクトリを指定し、OK ボタンをクリックしてください。

15 再起動を確認するメッセージが表示されますので はい ボタンをクリックします。

16 再起動すると設定した内容が有効になります。これでピア・ツー・ピアのネットワーク設定は完了です。なお、同じネットワークに接続されるコンピュータにはすべて同じ設定をする必要があります。

ファイルやプリンタを共有するには、ネットワークが有効になってから次の手順で共有設定をおこなってください。

■ファイル共有の画面例

①共有したいファイルのあるフォルダやプリンタのアイコンを右クリックし、メニューを表示します。
②メニューから[共有]を選択します。
③「共有する」を有効にし、必要な事項を設定します。

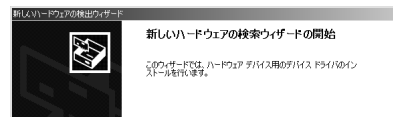
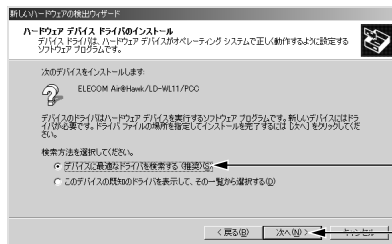
5 Windows 2000でのセットアップ

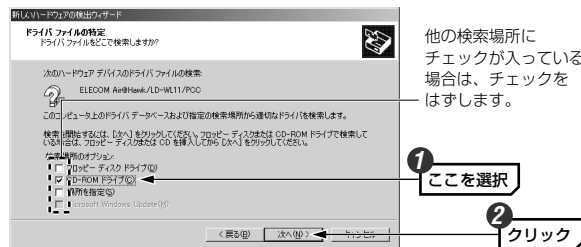
本製品をWindows 2000で使用できるようにドライバをインストールします。セットアップの前にコンピュータ本体のPCIバスに本製品を取り付けておきます。

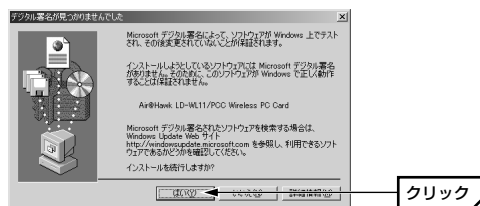
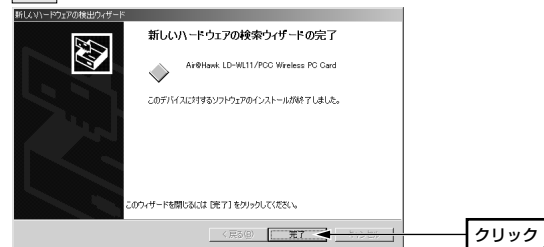
ドライバのインストール

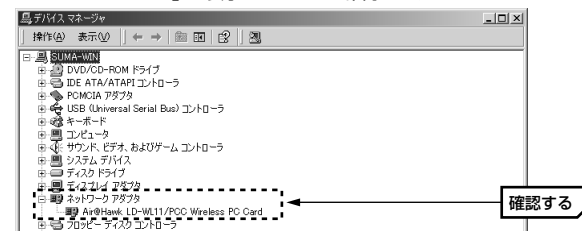
1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windowsを起動します。

・Administrator権限でログインしてください。

2 本製品をPCカードスロットに差し込むと、新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されますので、次へ ボタンをクリックします。

3 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

4 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

5 「検索場所のオプション」で「CD-ROMドライブ」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

6 見つかったドライバ名に「d:¥wl11pcc.inf」と表示されていれば、次へ ボタンをクリックします。

7 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されます。はい ボタンをクリックし、インストールを続行します。

8 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されますので、完了 ボタンをクリックします。

9 デスクトップ画面の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

10 【ハードウェア】タブの デバイスマネージャ ボタンをクリックします。「ネットワークアダプタ」の + をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card」が表示されることを確認します。

これでWindows 2000への標準ドライバのインストールは完了です。このあと59ページ「設定ユーティリティのインストール」へ進んでください。

MEMO インターネットへの接続やネットワークで共有したデータのやり取りなどには、ご使用の環境に合わせたネットワーク設定が必要です。このあとにWindows 2000でのネットワーク設定例を掲載しています。

ネットワークの設定例

基本的なネットワークでの設定例を説明します。

Windows 2000にはAdministrator権限でログオンしておきます。

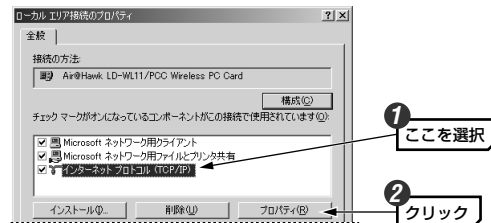
1 [スタート]→[設定]→[ネットワークとダイアルアップ接続]を開きます。

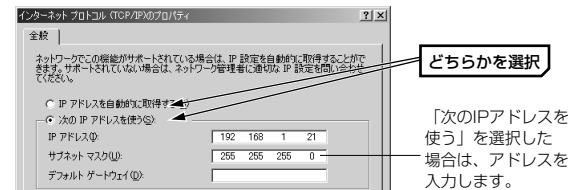
・〈ネットワークとダイアルアップ接続〉画面が表示されます。

2 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

・〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面が表示されます。

MEMO [ローカルエリア接続]の名称は、アダプタをインストールした環境によって変わります。〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面に表示されるアダプタ名を見て、ネットワークを設定するアダプタであるかを確認してください。

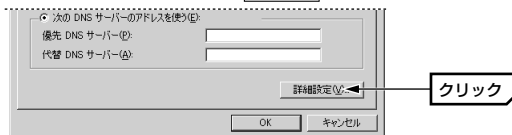
3 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、プロパティ ボタンをクリックします。

・〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面が表示されます。

4 IPアドレスに関する設定をします。

●DHCPサーバ(機能)を使用している場合

「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

●DHCPサーバ(機能)を使用していない場合

「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。「デフォルトゲートウェイ」と「DNSサーバ」はルータなどを使用してLANを超える場合に使用する項目なので、ここでは入力していません。

5 IPアドレスの設定が終われば、 詳細設定 ボタンをクリックします。

・〈TCP/IP詳細設定〉画面が表示されます。

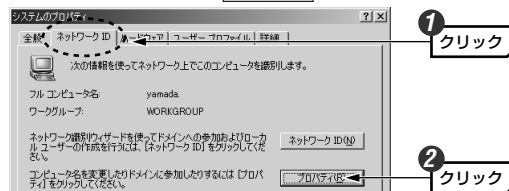
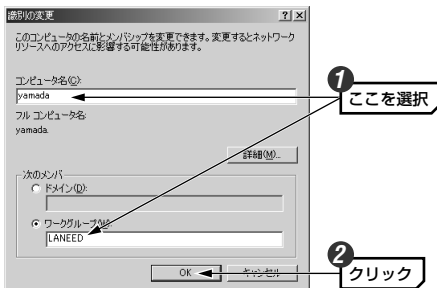
6 【WINS】タブで、「NetBIOS over TCP/IPを有効にする」をオン( )にし、 OK ボタンをクリックします。

・〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面に戻ります。

7 〈インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面→〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面で、それぞれ OK ボタンをクリックして画面を閉じます。さらに〈ネットワークとダイアルアップ接続〉画面を閉じます。

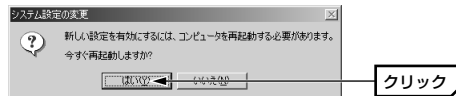
8 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[システム]アイコンを開きます。

・〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。

9 【ネットワークID】タブで、 プロパティ ボタンをクリックします。

10 コンピュータ名とワークグループ名を設定し、 OK ボタンをクリックします。

・表示されているコンピュータ名とワークグループ名から変更する必要がない場合は、 キャンセル ボタンをクリックします。

11 名称を変更すると次のようなメッセージが表示されます。それぞれ OK ボタンをクリックします。

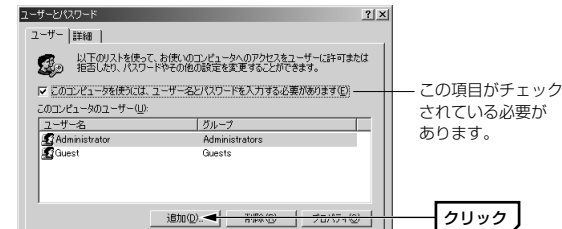
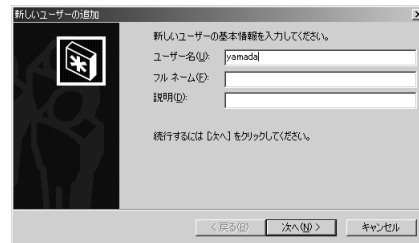
12 〈システムのプロパティ〉画面で、OK ボタンをクリックします。

13 設定を変更した場合は、再起動を促すメッセージが表示されますので はい ボタンをクリックします。

これで基本的なネットワーク設定は完了です。このあと、同じ要領で実際の環境に合った設定をおこなってください。

ユーザアクセス権の設定

Windows 2000をインストールしたコンピュータにアクセスできるようにするには、あらかじめ、アクセスを許可するユーザを登録しておく必要があります。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある[ユーザーとパスワード]を開きます。

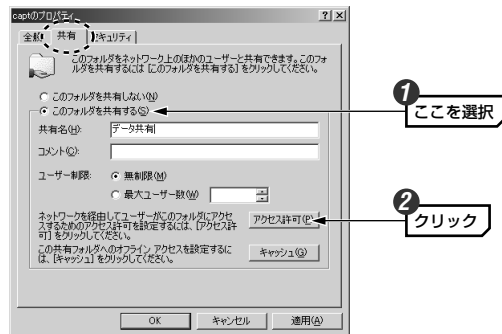
2 〈ユーザーとパスワード〉画面が表示されますので、追加 ボタンをクリックします。

3 このあとは、ウィザードのメッセージに従って、新しいユーザを登録します。

4 登録が完了すると、登録したユーザのアクセスが許可されます。

フォルダなどの共有設定

Windows 2000上のフォルダやドライブにアクセスできるように共有設定をおこないます。Windows 2000はアクセス権の設定がWindows Me/98に比べて詳細になっています。また、NTFSフォーマットでドライブをフォーマットしている場合は、さらにセキュリティ設定が必要になります。

1 **共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。**

・フォルダのプロパティが表示されます。

2 **【共有】タブで「このフォルダを共有する」を有効にし、アクセス許可 ボタンをクリックします。**

3 **このあとは、必要に応じてフォルダに対するアクセス権を設定してください。なお、NTFSフォーマットの場合は、【セキュリティ】タブでアクセス権を設定することをお勧めします。**

6 Windows NT 4.0でのセットアップ

Laneed

Windows NT 4.0はプラグ＆プレイに対応していませんので、本製品を取り付けても自動的にドライバのインストール画面は表示されません。コントロールパネルの「ネットワーク」を起動してドライバをインストールしてください。ここでは、インストールのためのポイントを説明します。

●インストール前のポイント

本製品が使用するIRQおよびI/Oポートアドレスを割り当てるために、あらかじめ空き状況を「Windows NT診断プログラム」を使って調べておいてください。

●インストール開始時のポイント

・コンピュータの電源を入れる前にPCカードスロットに本製品を取り付けておいてください。

・Windows NT 4.0のOSと同時にセットアップする場合は、セットアップ中に表示される画面に従って操作してください。

・すでにWindows NT 4.0をインストールしたコンピュータに本製品を取り付けた場合は、①コントロールパネルにある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。②「Windows NTネットワークがインストールされていません。」と表示されますので、はい ボタンをクリックします。③ドライバのインストール画面が表示されますので、メッセージに従ってインストールしてください。

・1度でもネットワークアダプタを取り付けたことがある環境では、①コントロールパネルにある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。②【アダプタ】タブを選択します。③ 追加 ボタンをクリックすると、ドライバのインストール画面が表示されますので、メッセージに従ってインストールしてください。

●インストール中のポイント
「ネットワークアダプタの選択」では、 ディスク使用 ボタンをクリックし、本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れてください。ドライバは「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card」を選択してください。

●インストール後のポイント(デバイスの競合の回避方法)
再起動後、本製品が他のデバイスと競合してエラーが発生した場合は、次の手順で設定を変更してください。

①コンピュータ本体の電源を切り、本製品を一度取りはずします。

②コンピュータを起動し、次ページ「設定ユーティリティのインストール」をお読みになり、本製品の設定ユーティリティをインストールします。

③設定ユーティリティを起動し、【ネットワーク設定】タブにある 詳細設定 ボタンをクリックします。ここでIRQとI/Oポートアドレスを他のデバイスと競合しないように設定します。

④コンピュータ本体の電源を切り、最初に本製品を取り付けたスロットと同じスロットに本製品を取り付けます。

⑤コンピュータ本体を起動します。これで本製品の競合を回避できます。

●その他のポイント
・本製品のドライバのインストールが終われば、設定ユーティリティを使って必要な設定をおこなってください。次ページへ進みます。

・ご使用の環境に合わせてネットワーク設定をしてください。

7 無線LANの基本設定

Laneed

無線LAN設定に必要な設定ユーティリティのインストール方法を説明します。説明の画面にはWindows XPを使用していますが、他のOSでも手順は同じです。

Windows XPでOS標準の機能であるワイヤレスネットワーク接続を使用する場合は、設定ユーティリティをインストールする必要はありません。設定ユーティリティをインストールすると正常に動作しなく恐れがありますのでご注意ください。ワイヤレスネットワーク接続を使用する場合の設定方法については、Windows XPに関する説明書を参照してください。

設定ユーティリティのインストール

1 **付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。**

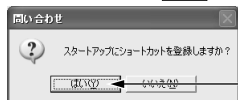
2 **マイコンピュータなどを使ってCD-ROMディスクの内容を表示します。[utility]フォルダの中にあるsetup(.exe)をダブルクリックします。**

・インストーラが起動します。

付属のCD-ROMディスクの中には、setup.(exe)ファイルが含まれるフォルダが複数ありますが、ここでは必ず[utility]フォルダの中にあるsetup(.exe)を実行してください。他のセットアッププログラムを実行すると本製品が使用できなくなります。

3 インストール先を指定する画面が表示されます。通常はそのままで変更の必要はありません。［次へ］ボタンをクリックします。

4 プログラムフォルダ名を指定する画面が表示されます。通常はそのままで変更の必要はありません。［次へ］ボタンをクリックします。

5 設定ユーティリティを常駐させるため、スタートアップに登録するかメッセージが表示されます。［はい］ボタンをクリックします。

これでインストールは完了です。画面を閉じてCD-ROMディスクをドライブから取り出し、大切に保管してください。

MEMO アンインストールするときは
[スタート]→[(すべての)プログラム]→[Laneed Air@Hawk]にあるアンインストールプログラムを実行してアンインストールします。

無線LANで接続する

ここでは無線LANで接続するための基本項目だけを設定します。なお、無線LANには2つの通信モードがあります。ご使用になる環境がどちらの通信モードになるかを確認してから操作手順をお読みください。

インフラストラクチャ・モード	無線LANのアクセスポイントまたは無線ルータを経由してデータをやり取りします。
アドホック・モード	アクセスポイント等を使用せず、無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接データをやり取りします。

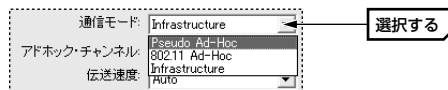
1 ご使用の通信モードに合わせて、アクセスポイント(無線ルータ)や無線LANアダプタを取り付けたコンピュータを起動しておきます。

・インフラストラクチャ・モードではアクセスポイントが、アドホック・モードでは接続相手のコンピュータが起動していないと設定できません。
・Windows 2000/NT 4.0ではAdministrator権限でログインしてください。

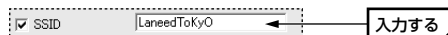
2 タスクトレイにあるユーティリティアイコンをクリックします。

・タスクトレイにアイコンがない場合は、[スタート]→[(すべての)プログラム]→[Laneed Air@Hawk]→[Air@Hawk Series WLAN Utility]を選択します。

アイコンが赤色で表示されているとき
接続相手が見つからないか、本製品が正常に動作していません。116ページ「こんなときは」を参照してください。

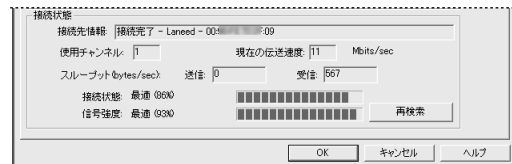
3　【ネットワーク設定】タブで通信モードを設定します。インフラストラクチャ・モードの場合は、そのまま手順 **4** へ進みます。

・アドホック・モードには2種類のモードがあります。

Infrastructure	無線LANのアクセスポイントまたは無線ルータに接続してデータのやり取りをします。
Pseudo Ad-Hoc (チャンネルによる接続)	[アドホック・チャンネル]で設定したチャンネルと同じチャンネルを使っている無線LANアダプタと接続できます。必ず、[アドホック・チャンネル]を指定してください。ESS IDは無効になります。手順 **5** へ進みます。 アドホック・チャンネル: 3
802.11 Ad-Hoc (ESS IDによる接続)	[SSID]で設定したESS IDと同じESS IDを使っている無線LANアダプタと接続できます。[アドホック・チャンネル]の設定は無効になります。

4　「Pseudo Ad-Hoc」以外の通信モードの場合は、[SSID]にESS IDを入力します。

・ESS IDを半角英数字32文字以内で入力します。大文字と小文字が区別されます。無線LAN上の同一グループに所属するコンピュータはすべて同じ名称にします。ESS IDの異なるコンピュータに接続することはできません。
・無線LANの接続が確認できるまでは、初期値の「ANY」ままでもかまいません。ただし、接続を確認したあとは設定を変更してください。混信などを避けるために、動作確認後は必ずESS IDを変更してください。

MEMO　【AP一覧】タブを利用すると接続可能なESS IDを確認することができます。正確なESS IDのスペルがわからない場合などは、77ページ「接続(ESS)」の説明をお読みください。

5　設定を保存するため 変更 ボタンをクリックします。

6　正常に接続されると、[接続状態]の情報が表示されます。次のことを確認してください。

①[接続先情報]に接続先のアクセスポイント(無線ルータ)や無線LANアダプタのMACアドレスが表示されているか。
②[接続先情報]に接続先のESS IDが表示されているか(Pseudo Ad-Hoc時は表示されません)。
③スループットの送信/受信に変化があるか。
④接続状態および信号強度のインジケータが動作しているか(「0%」の場合、正常に接続されていません)

これらの項目の状態が正常でない場合は、116ページ「こんなときは」を参照してください。

7　正常に動作が確認できれば OK ボタンをクリックします。

8　「マイネットワーク」で相手の共有フォルダを確認したり、WEBブラウザでインターネットに接続できるかを確認します。

◆LAN上のコンピュータの共有フォルダを確認したWindows XPの画面例

・Windows XPでは、[スタート]→[マイネットワーク]を選択します。[マイネットワーク]が見あたらない場合は、[スタート]→[マイコンピュータ]を選択し、左フレームの[その他]にある[マイネットワーク]を選択します。ネットワーク上のコンピュータを開くと共有フォルダが表示されます。
・その他のOSではデスクトップにある[マイネットワーク]を開きます。ネットワーク上のコンピュータを開くと共有フォルダが表示されます。

●Windows XP環境でマイネットワークを使って確認する場合は、先に26ページ「サービスとプロトコルの確認」をお読みになり、ネットワークの設定をおこなう必要があります。

●無線LANが正しく設定されている場合でも、各コンピュータのネットワーク設定やインターネットへ接続する設定が終わっていないと接続できません。
・共有フォルダで確認するには、ネットワーク設定が完了して相手のコンピュータに共有フォルダが設定されている必要があります。
・インターネットに接続して確認するには、あらかじめ他のコンピュータでインターネットに接続できることを確認している必要があります。また、本製品を取り付けたコンピュータのTCP/IPプロトコル設定が完了している必要があります。TCP/IPの確認方法については、このマニュアルのネットワーク設定に関する説明を参考にしてください。

これで無線LANの動作確認は完了です。
・よりセキュリティを高めるためにWEPなどを設定したり、その他のオプションを設定する場合は次ページからの「各タブの設定リファレンス」をお読みください。

8 各タブの設定リファレンス

Laneed

ネットワーク設定 タブ

【ネットワーク設定】タブは、無線LANを使用するのに必要な環境を設定する部分と現在の状態を表示する部分に分かれています。設定を変更した場合は、必ず **変更** ボタンをクリックしてください。

●ネットワーク設定

アダプタを選択してください。	無線LANアダプタが複数ある場合に選択します。
プロファイル	現在の設定をプロファイルとして保存することができます。複数の無線LAN環境でコンピュータを使用する場合、プロファイルを保存/切り替えることで、簡単に各環境の設定に合わせることができます。保存方法は69ページ「プロファイルの保存」をお読みください。
WEPを有効にする	WEP機能を使用する場合にオンにします。[WEP設定]ボタンが有効になり、設定画面が表示されます。WEPの設定方法については、70ページ「WEPの設定」をお読みください。

通信モード	Infrastructure、Pseudo Ad-Hoc、802.11 Ad-Hocの3つのモードを選択できます。各モードの説明については、62ページの手順 3 の一覧をお読みください。
アドホック・チャンネル	Pseudo Ad-Hocモードの場合にチャンネルを選択します。各無線LANアダプタが同じチャンネルを使用するように設定します。Infrastructureモードおよび802.11 Ad-Hocモードではチャンネルを設定する必要はありません。
伝送速度	通常は「自動」に設定しておくと、信号強度に合わせて自動的に伝送速度を調整します。信号強度が高い場合は高速に、弱い場合は低速になります。通信距離よりも通信速度を有線したい場合などは速度を固定することもできます。速度を固定した場合は、通信速度が維持できないほど信号強度が低下すると通信できなくなります。
SSID	初期値は「ANY」で、接続先のESS IDに関係なく接続することができます。動作確認後はご使用になる無線LANグループのESS IDに設定を変更することをお勧めします。入力できる文字は半角英数字32文字までです。大文字と小文字が区別されます。
BSSID	アクセスポイントが複数ある場合、特定のアクセスポイントだけに接続したい場合にオンにし、アクセスポイントのMACアドレスを入力します。

MEMO

●ESS IDについて

混信や盗聴を防ぐためにESS IDは初期値から変更することをお勧めします。同じ無線LANグループに属するアクセスポイント(無線ルータ)および無線LANアダプタは、すべて同じESS IDに設定します。ESS IDは大文字と小文字を区別しますのでご注意ください。

●ESS IDの確認方法

【AP一覧】タブを利用すると接続可能なESS IDを確認することができます。正確なESS IDのスペルがわからない場合などは、77ページ「接続(ESS)」の説明をお読みください。

● WEP ボタン

WEPの設定画面を表示します。「WEPを有効にする」をオンにするとクリック可能になります。WEPの設定については、70ページ「WEPの設定」をお読みください。

● 詳細設定 ボタン

より細かな設定項目を表示します。内容については、次ページ「詳細設定」をお読みください。

● 初期値 ボタン

設定内容を工場出荷時の状態に戻します。

● 変更 ボタン

設定を変更した場合、このボタンをクリックすることで、変更した内容が保存されます。設定を変更した場合は必ずクリックしてください。

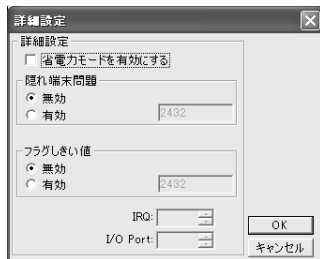
●接続状態

接続先情報	接続状態、接続先のESS ID,アクセスポイントのMACアドレスを表示します。
使用チャンネル	Pseudo Ad-Hocモード時は現在設定しているチャンネルを表示します。その他のモードでは関係ありません。
現在の伝送速度	現在の伝送速度を表示します。
スループット	1秒間に送受信されるデータ量をバイト単位で表示します。
接続状態	現在の接続状態を最大100%で表示します。%が高いほど良好です。
信号強度	現在の信号状態を最大100%で表示します。%が高いほど良好です。

● 再検索 ボタン

接続先のアクセスポイントや無線LANアダプタを再検索します。

詳細設定

より高度な内容を設定するための画面です。

●省電力モードを有効にする

本製品を省電力モードで使用するとコンピュータ本体の消費電力を抑えることができます。コンピュータ本体が省電力モードに対応している場合にオンにします。コンピュータ本体が省電力モードに対応していない場合はオフにしてください。間違った設定をすると認識されないなどの問題が発生する恐れがあります。

●隠れ端末問題

通常はこのまま変更する必要はありません。障害物などにより隠れ端末ができると、コリジョンが発生してデータの転送効率が低下することがあります。このような場合は、この値を小さくすると、設定した値を超えるパケットが端末から送信された場合に、CSMA/CA with RTS/CTS方式で通信するようになります。これにより、パケットが小さく分割されコリジョンを回避することができます。

※「有効」をオンにすると数値の入力が可能になります。

●フラグしきい値

通常はこのまま変更する必要はありません。通信状態が悪い環境では、同じデータの送信を何度もくり返して要求されることがあります。このような環境で、大きなファイルサイズのデータを送信すると、再送信がくり返されたり、それが原因でコリジョンが発生したりします。このような場合に、この値を小さくします。設定した値を超えるパケットが端末から送信された場合に、パケットが小さく分割されコリジョンを回避することができます。

※「有効」をオンにすると数値の入力が可能になります。

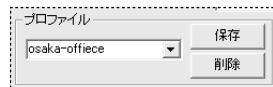
●IRQおよびI/O Port(Windows NT 4.0でのみ有効)

プラグ＆プレイに対応していないWindows NT 4.0で本製品を使用する場合に、IRQおよびI/Oポートアドレスが他のデバイスと競合しないように設定を変更することができます。

プロファイルの保存

本製品を取り付けたコンピュータを複数の無線LANグループで使用している場合、各グループごとの環境設定をプロファイルとして保存しておくと、環境に応じてプロファイルを変更するだけですぐに無線LANを利用できます。例えば、通常は本社で無線LANにつないでいるが、出張で支社の無線LANにつなぐような場合、それぞれの環境のESS IDやWEP設定をプロファイルとして保存しておくと、プロファイルを選択するだけで環境を変更することができます。

●操作手順

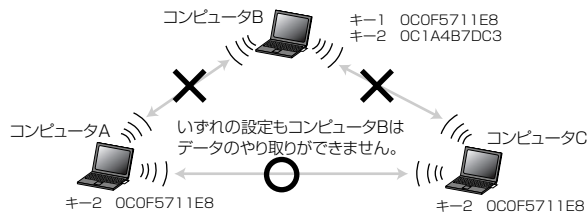
必要なネットワーク設定をしたあとプロファイル名を入力し、 保存 ボタンをクリックします。各無線LANグループの環境に合わせた設定をおこない、複数のプロファイルを保存します。プロファイルを切り替える場合は、使用するプロファイルを選択し、必ず 変更 ボタンをクリックしてください。

・ 削除 ボタンをクリックすると、表示されているプロファイルを削除します。

WEPの設定

無線LAN上でやり取りされるデータを盗聴から保護するためにWEP(Wired Equivalent Privacy)に基づいてデータを暗号化します。これにより、WEPを設定したコンピュータだけがデータを読み取れるようにします。

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続をご利用の場合
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続で本製品を利用している場合は、WEPについてもWindows XP標準のWEP設定を利用してください。設定方法についてはWindows XPに関する説明書を参照してください。

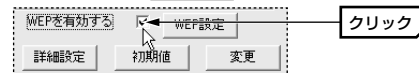
WEP設定のポイント

WEPキーにはキー1～キー4まであり、同時に4種類のキーを登録できます。コンピュータAとコンピュータBの間で暗号化したデータをやり取りする場合は、お互いが同じWEPキー番号(キー1～キー4のいずれか)に同じキーワードを入力します。これで暗号化されたデータを正しく受信できます。キー番号は4つありますが、実際に使用するのはひとつだけです。WEPを設定しても暗号キーの文字列が異なったり、文字列が同じでも使用するWEPキー番号が異なると、データのやり取りはできません。

キーに入力できる文字と文字数

各キー(キー1～キー4)に入力できる文字は半角文字の16進数または半角英数字だけです。16進数とは0～9の数字とA～Fのアルファベットで構成される文字列です。例えば「0C2F91A27B」のようになります。全角文字や記号は使えません。入力する文字数は16進数では64ビットなら10桁の文字列を、128ビットなら26桁の文字列を入力します。半角英数字では64ビットなら5桁の文字列を、128ビットなら13桁の文字列を入力します。それぞれ文字数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。
※製品によって半角英数字に対応しないものがあります。

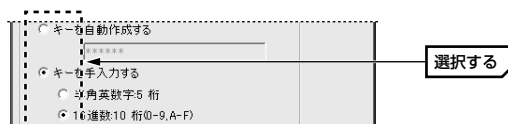
WEPの設定手順

本製品の設定ユーティリティで設定します。

1 **【ネットワーク設定】タブにある[WEPを有効にする]をオンにします。すでにオンの場合は、WEP設定 ボタンをクリックします。**

・オフからオンに変更した場合は〈暗号化〉画面が自動的に表示されます。

2 **[暗号化(WEP)]で、WEPの種類を選択します。**

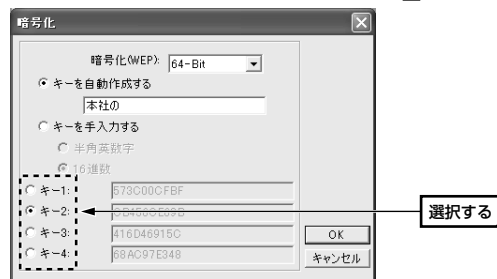
64-Bit	64ビットで暗号化します。40ビットのWEPと互換性のある暗号化です。同じ無線LANグループの無線LANアダプタおよびアクセスポイントが40ビットしか対応していない場合はこちらを選択します。
128-Bit	128ビットで暗号化します。64ビットよりも高度なセキュリティを確保できます。同じ無線LANグループの無線LANアダプタおよびアクセスポイントが128ビットの暗号化に対応している必要があります。

3 キーの作成方法を選択します。

キーを自動作成する		お好みの文字を入力すると自動的にキーを作成します。全角/半角、英数字/漢字など自由に入力できます。
キーを手入力する	半角英数字	半角英数字(ASCIIコード)を使用することができます。全角文字や記号は使えません。大文字と小文字が区別されます。
	16進数	半角文字の16進数を使用することができます。16進数とは0～9の数字とA～Fのアルファベットで構成される文字列です。例えば「0C2F91A27B」のようになります。全角文字や記号は使えません。

4 [キーを自動作成する]を選択した場合は、次の手順で操作します。なお、キーを自動作成する場合は、ここで作成されたキーを各無線LAN機器のWEP設定で使用するキーにしてください。

●入力スペースにお好みの文字を入力します。キー1～キー4に自動的に16進数のキーが表示されます。

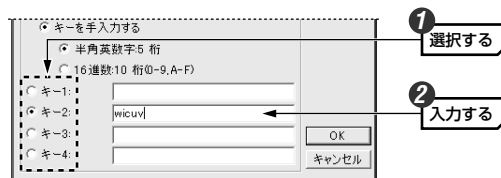
・入力する文字には漢字やカナなども使用できます。

●使用するキーの番号を選択します。このあと手順 **6** へ進みます。

・同じWEPを使用する無線LANグループの無線LAN機器は、すべて同じキーおよびキー番号を利用します。

注意

●キーの自動作成機能は、同じ文字を入力した場合でも、他製品で自動作成される16進数と本製品で自動作成される16進数が必ず同一になるとは限りませんのでご注意ください。

●入力した文字およびキーに表示された16進数は OK ボタンをクリックすると表示されなくなります。メモするなどして忘れないようにしてください。

5 [キーを手入力する]を選択した場合は、使用するキー番号を選択し、そのキー番号に半角英数字または16進数を入力します。

・64-Bitの半角英数字を選択した場合の例です。
・すべてのキー番号にキーを入力してもかまいません。

64-Bit 16進数の入力例

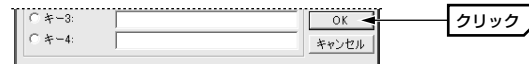
◉ キー2:　0EBC6A912F

入力するべき半角英数字または16進数は次のとおりです。

暗号化	半角英数字を選択した場合	16進数を選択した場合
64-Bit	半角英数字 5文字	10桁の16進数
128-Bit	半角英数字 13文字	26桁の16進数

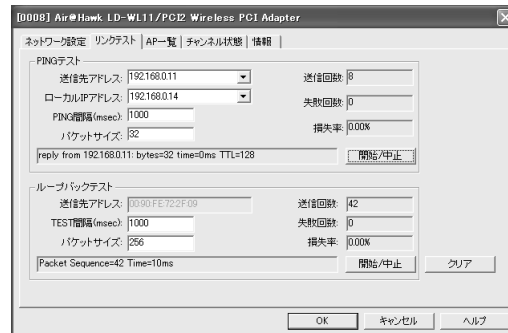
- 文字数および桁数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。
- 半角英数字は大文字と小文字が区別されます。16進数の場合は大文字と小文字は区別されません。

注意　入力した文字列は OK ボタンをクリックすると表示されなくなります。メモするなどして忘れないようにしてください。

6 すべての設定が終われば、OK ボタンをクリックします。

7 【ネットワーク設定】タブにある 変更 ボタンをクリックします。これでWEPが有効になります。

これでこのコンピュータのWEPの設定は完了です。データのやり取りをするすべてのコンピュータおよびアクセスポイントに同じWEPを設定をします。

リンクテスト タブ

【リンクテスト】タブでは、PINGテストとループバックテストが可能です。正常に接続できないときやメンテナンスに利用します。

●PINGテスト

[送信先アドレス]に入力したアドレスを持つネットワーク機器に対してパケットを送信し、正常に送受信できているかをテストします。PINGが正常に返ってこなかったり、失敗回数が多いときは、送信先との間に何らかの問題があると考えられます。

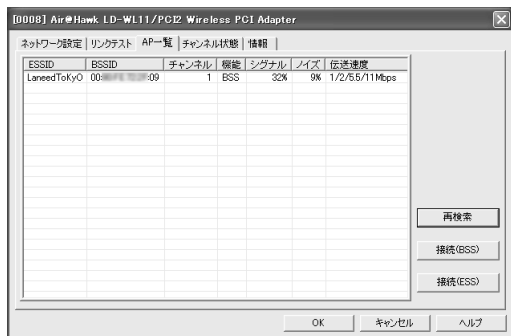
①[送信先アドレス]に相手のネットワーク機器のIPアドレスを入力します。その他の項目も必要に応じて設定します。
②[ローカルIPアドレス]が複数登録されている場合はリストから選択します。
③ **開始/中止** ボタンをクリックします。
④返答された結果が表示されます。
⑤もう一度、**開始/中止** ボタンをクリックするとテストを中止します。
※ **クリア** ボタンをクリックするとテスト内容をクリアします。

●ループバックテスト
本製品⇔接続相手のリンク状態をテストします。失敗回数が多いときは、アクセスポイントとの間で電波状態が悪いなど、何らかの問題があると考えられます。なお、接続相手として使用できる機種は、本製品以外にLD-WL11/AP、LD-WL11/PCI2です。

①[TEST間隔]およびパケットサイズを必要に応じて変更します。
② 開始/中止 ボタンをクリックします。
③経過が表示されます。
④もう一度、開始/中止 ボタンをクリックするとテストを中止します。
※ クリア ボタンをクリックするとテスト内容をクリアします。

AP一覧 タブ

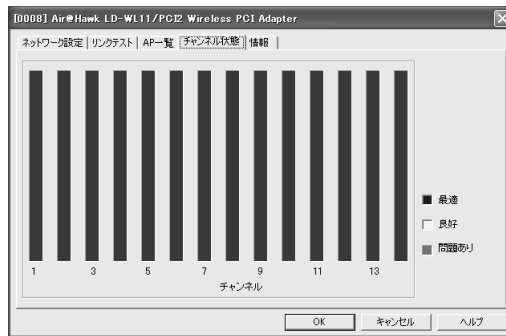
アクティブな状態にあるすべてのアクセスポイントの状態を表示することができます。なお、アクセスポイントの検索中は、ネットワークが一時的に中断されますので、データの送受信はできません。

MEMO リスト中のアクセスポイントを選択するには、選択したいアクセスポイントのセルをクリックします。

● 再検索 ボタン
このボタンをクリックすると受信可能な状態にあるアクセスポイントをすべてリスト表示します。

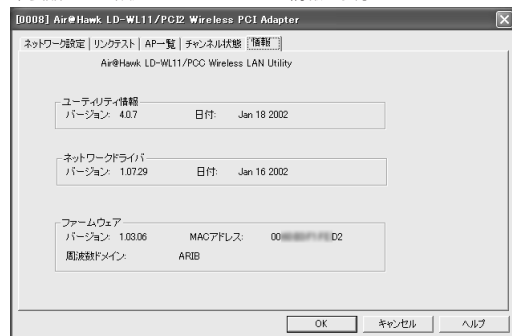
● 接続(BSS) ボタン
アクセスポイントが複数ある場合、リストのアクセスポイントを選択し、このボタンをクリックすると、選択したアクセスポイントに接続するように設定できます。【ネットワーク設定】タブの[BSSID]のMACアドレスの表示が選択したアクセスポイントのMACアドレスになります。接続するアクセスポイントを特定した場合などに使用します。

● 接続(ESS) ボタン
異なるESS IDが設定された複数のアクセスポイントがある場合、リスト上のアクセスポイントを選択し、このボタンをクリックすることで選択したアクセスポイントに設定されたESS IDに設定が変更されます。【ネットワーク設定】タブの[SSID]のESS IDの表示が選択したアクセスポイントのESS IDになります。使用する無線LAN環境に複数のESS IDがある場合や正確なESS IDがわからない場合などに使用します。

チャンネル状態 タブ

チャンネルごとの電波状態をリアルタイプで表示することができます。

青色：最適　　黄色：良好　　赤色：問題あり

情報 タブ

本製品および設定ユーティリティの情報を表示します。

ユーティリティ情報	設定ユーティリティのバージョンを表示します。
ネットワークドライバ	本製品のドライバのバージョンを表示します。
ファームウェア	本製品のファームウェアのバージョン、本製品のMACアドレス、本製品が対応する周波数ドメインを表示します。日本国内の周波数ドメインは「ARIB」になります。

Chapter 3

Mフレッツ用ドライバ編

本製品でNTT東日本(東日本電信電話株式会社)の「Mフレッツ」サービスを利用する場合は、Mフレッツ対応ドライバと設定ユーティリティを使用します。このドライバを使用すると一般の無線LAN環境だけでなく、Mフレッツによる屋外での無線LANサービスを利用できるようになります。
このChapterでは、ドライバと設定ユーティリティのインストール方法、無線LANでの接続方法、設定ユーティリティの使い方が記載されています。

1 ドライバインストール時の注意事項

Mフレッツ用ドライバのインストールを開始するきに注意が必要です。必ずこのあとの注意事項をお読みになったうえでインストールしてください。

●インストールするドライバを指定してください

本製品にはMフレッツ非対応の標準ドライバとMフレッツ対応ドライバの2種類のドライバが用意されています。標準ドライバが自動的にインストールされないようにするために、必ずMフレッツ用のドライバを手動で選択してインストールを実行してください。自動検索でインストールすると標準ドライバがインストールされてMフレッツではご使用いただけません。

●本製品の取り付けとCD-ROMをセットする順序について

ご使用のOSおよび環境によっては、本製品を新しいデバイスとして認識した場合、CD-ROMディスクをドライブにセットしただけで、自動的にインストールが始まってしまうことがあります。この状態でインストールを実行するとMフレッツ非対応の標準ドライバがインストールされます。必ず、以下の手順でドライバのインストールを開始してください。

1 本製品をPCカードスロットからはずした状態で、Windowsを起動します。

▼

2 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。ドライブの読み込みランプが消灯するのを待ちます。

▼

3 本製品をPCカードスロットに差し込みます。

▼

新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

OSごとのインストール方法の説明はこの手順で説明しています。それぞれのOSの説明ページへ進んでください。

2 Windows XPでのセットアップ

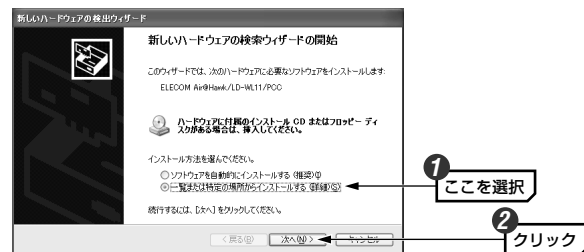
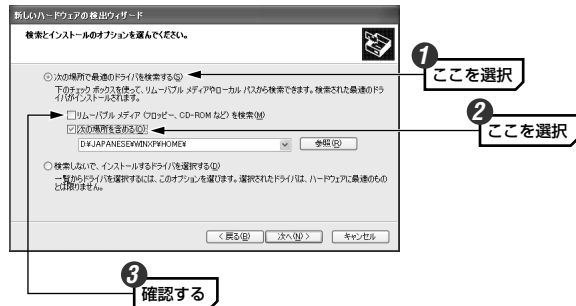
本製品を使用するには、はじめにドライバのインストールが必要です。Mフレッツ用ドライバをインストールする場合は、必ずこのあとの説明に従ってインストールしてください。インストールを始める前に前ページの「ドライバインストール時の注意事項」を必ずお読みください。

ドライバのインストール

1 本製品をPCカードスロットからはずした状態でWindowsを起動します。

2 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。ドライブの読み込みランプが消灯するのを待ちます。

3 本製品をPCカードスロットに差し込みます。新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

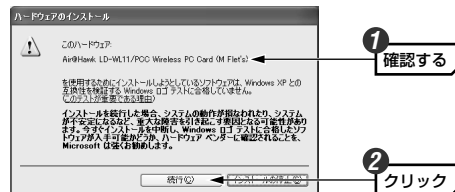
4 「一覧または特定の場所からインストールする」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

5 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、「次の場所を含める」を選択します。このとき「リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索」のチェックがオンになっている場合はオフにします。

・「リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索」がオンになっていると、間違ったドライバがインストールされる恐れがあります。

6 参照 ボタンをクリックします。

7 本製品のCD-ROMにある「mflets」フォルダを選択し、OK ボタンをクリックします。

・CD-ROMドライブは「マイコンピュータ」を開くと表示されます。
・直接ドライブ名とフォルダ名を入力する方法もあります。

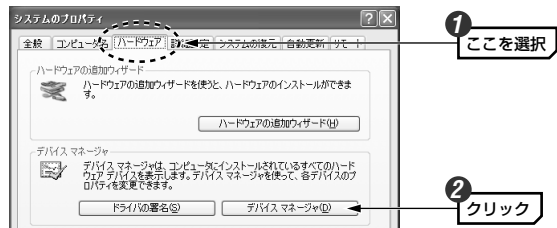
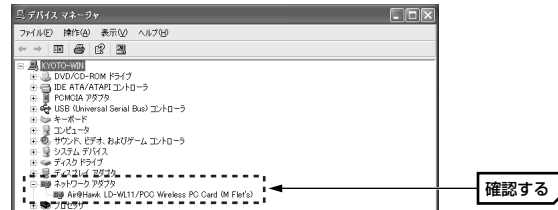
8 次へ ボタンをクリックします。

9 「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card (M Flet's)」と表示されていることを確認し、続行 ボタンをクリックします。ドライバのインストールが開始されます。

・このドライバについては、弊社にてWindows XP上で正常に動作することを検証しております。

注意 LD-WL11/PCCにはMフレッツに対応しない標準ドライバとMフレッツ用ドライバの2種類があります。「(M Flet's)」と表示されていることを確認してください。

10 しばらくすると、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、 完了 ボタンをクリックします。

11 次の手順でデバイスマネージャを表示します。

①[スタート]メニューを開き、[マイコンピュータ]にカーソルを合わせます。
②マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。
③【ハードウェア】タブを選択し、 デバイスマネージャ ボタンをクリックします。

12 「ネットワーク アダプタ」の + をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card(M Flet's)」が表示されることを確認します。

・他の名称が表示されたり×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。116ページ「こんなときは」をお読みください。
・確認が終われば画面を閉じます。

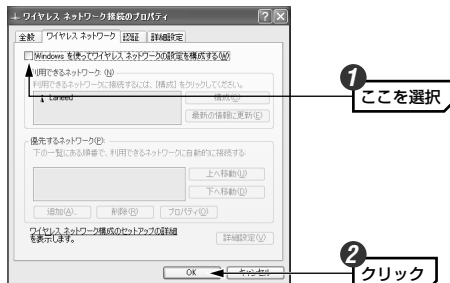
これでWindows XPへのMフレッツ用ドライバのインストールは完了です。このあと本製品の設定ユーティリティを有効にするため、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を無効にします。次の「Windows XPのワイヤレス設定を無効にする」へ進んでください。

Windows XPのワイヤレス設定を無効にする

本製品に付属の設定ユーティリティを利用できるようにWindows XPの設定を変更します。

1 デスクトップ画面の右下のタスクトレイにある[ワイヤレスネットワーク]アイコンをクリックします。この時点では、まだ無線LANに接続できないために×マークが付いている場合があります。

2 〈ワイヤレスネットワークへの接続〉画面が表示されますので、詳細設定 ボタンをクリックします。

3 【ワイヤレスネット】タブにある「Windowsを使ってワイヤレス ネットワークの設定を構成する」のチェックボックスをオフにし、OK ボタンをクリックします。

これでWindows XPへのドライバのインストールは完了です。このあとは103ページ「設定ユーティリティのインストール」へ進んでください。

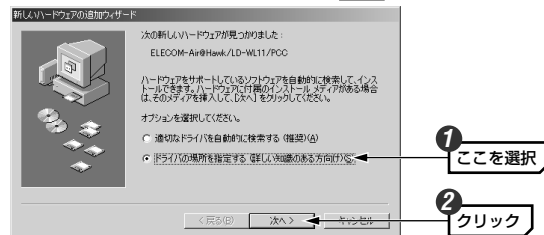
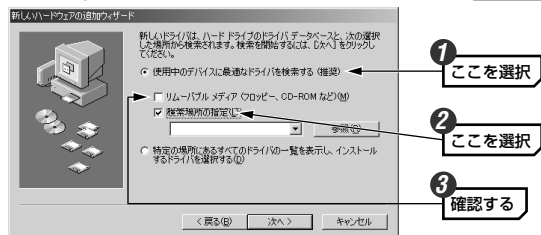
3 Windows Meでのセットアップ

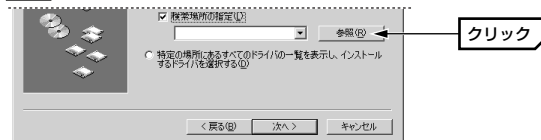
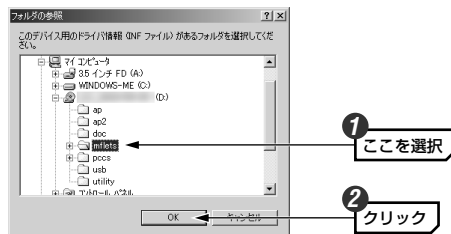
本製品を使用するには、はじめにドライバのインストールが必要です。Mフレッツ用ドライバをインストールする場合は、必ずこのあとの説明に従ってインストールしてください。インストールを始める前に80ページ「ドライバインストール時の注意事項」を必ずお読みください。

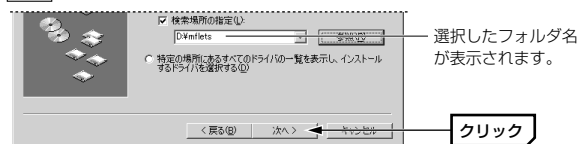
1 本製品をPCカードスロットからはずした状態でWindowsを起動します。

2 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。ドライブの読み込みランプが消灯するのを待ちます。

3 本製品をPCカードスロットに差し込みます。新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

4 「ドライバの場所を指定する」を選択し、次へ をクリックします。

5　「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「検索場所の指定」を選択します。このとき「リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)」のチェックボックスがオンになっている場合はオフにします。

・「リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)」がオンになっていると、間違ったドライバがインストールされます。

6　参照 ボタンをクリックします。

7　本製品のCD-ROMにある「mflets」フォルダを選択し、OK ボタンをクリックします。

・直接ドライブ名とフォルダ名を入力する方法もあります。

8　次へ ボタンをクリックします。

9　「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card (M Flet's)」と表示されていることを確認し、次へ ボタンをクリックします。ドライバのインストールが開始されます。

注意　LD-WL11/PCCにはMフレッツに対応しない標準ドライバとMフレッツ用ドライバの2種類があります。「(M Flet's)」と表示されていることを確認してください。

10 しばらくすると、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、 完了 ボタンをクリックします。

11 コンピュータを再起動するようにメッセージが表示されます。ここでは、 いいえ ボタンをクリックします。

12 デスクトップ画面の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

13 〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【デバイスマネージャ】タブにある「ネットワーク アダプタ」の + をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card(M Flet's)」が表示されることを確認します。

・本製品が見あたらなかったり、×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。ユーザーズマニュアルの「こんなときは」をお読みください。

14 Windowsを再起動します。

MEMO
●ネットワークアダプタに「ダイヤルアップアダプタ」が表示されている場合がありますが、これはアナログモデム/TA用でLANアダプタとは関係ありません。

●再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。[ユーザー名]は必ず入力します。必要であれば[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これでWindows MeへのMフレッツ用ドライバのインストールは完了です。このあと103ページ「設定ユーティリティのインストール」へ進んでください。

MEMO
インターネットへの接続やネットワークで共有したデータのやり取りなどには、ご使用の環境に合わせたネットワーク設定が必要です。40ページより「ピア・ツー・ピアによるネットワーク設定」に設定例を掲載しています。

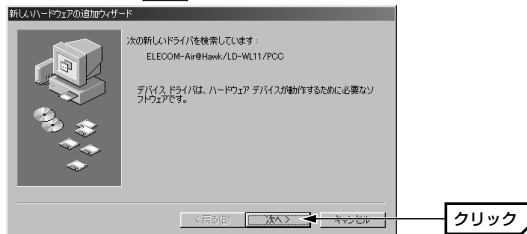
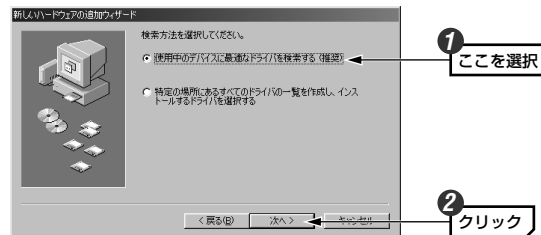
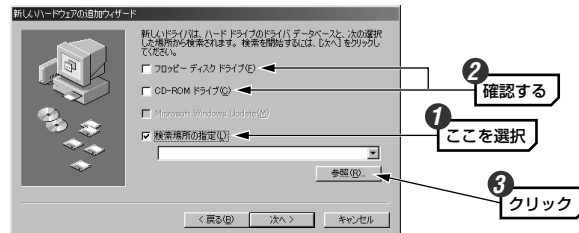
4 Windows 98でのセットアップ

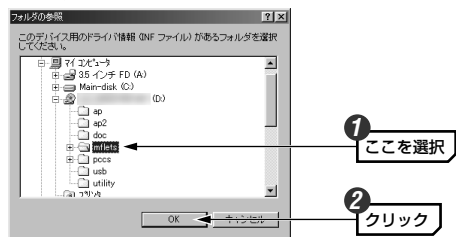
本製品を使用するには、はじめにドライバのインストールが必要です。Mフレッツ用ドライバをインストールする場合は、必ずこのあとの説明に従ってインストールしてください。インストールを始める前に80ページ「ドライバインストール時の注意事項」を必ずお読みください。

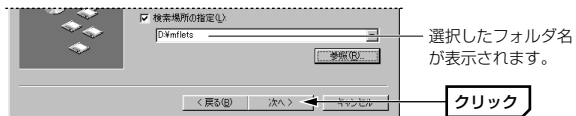
本製品のドライバはWindows 98に対応しますが、Mフレッツサービスは Windows 98 Second Edition以降の対応です。

1 本製品をPCカードスロットからはずした状態でWindowsを起動します。

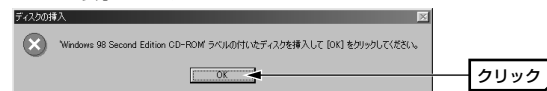
2 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。ドライブの読み込みランプが消灯するのを待ちます。

3 本製品をPCカードスロットに差し込みます。ドライバを検索する画面が表示されますので、 次へ ボタンをクリックします。

4 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、 次へ ボタンをクリックします。

5 「検索場所の指定」を選択し、 参照 ボタンをクリックします。このとき、他のチェックボックスがオンになっている場合はすべてオフにします。

・他のチェックボックスがオンになっていると、間違ったドライバがインストールされます。

6 本製品のCD-ROMにある「mflets」フォルダを選択し、OK ボタンをクリックします。

・直接ドライブ名とフォルダ名を入力する方法もあります。

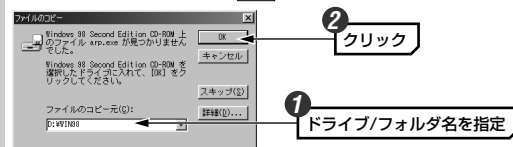
7 次へ ボタンをクリックします。

8 「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card (M Flet's)」と表示されていることを確認し、次へ ボタンをクリックします。ドライバのインストールが開始されます。

LD-WL11/PCCにはMフレッツに対応しない標準ドライバとMフレッツ用ドライバの2種類があります。「(M Flet's)」と表示されていることを確認してください。

9 お使いの環境によっては、Windows 98のCD-ROMを挿入するようにメッセージが表示されます。

・CD-ROMディスクをドライブに挿入し、OK ボタンをクリックします。

MEMO 次のような画面が表示された場合はCD-ROMディスクを入れたドライブの「WIN98」フォルダを指定し、OK ボタンをクリックします。

・ドライブ名のあとに必ず「WIN98」ディレクトリを指定します。
(例)CD-ROMドライブがDドライブの場合(小文字でも可)

```
D:¥WIN98
```

MEMO すでにインストールされているファイルのほうが新しい場合、そのファイルを上書きするか確認のメッセージが表示されます。この場合は、日付の新しいファイルをそのまま使用するようにしてください。

10 しばらくすると、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、完了 ボタンをクリックします。

11 コンピュータを再起動するようにメッセージが表示されます。ここでは、いいえ ボタンをクリックします。

12 デスクトップ画面の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

13 〈システムのプロパティ〉画面が表示されます。【デバイスマネージャ】タブにある「ネットワーク アダプタ」の + をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card(M Flet's)」が表示されることを確認します。

・本製品が見あたらなかったり、×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。ユーザーズマニュアルの「こんなときは」をお読みください。

14 Windowsを再起動します。

MEMO 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。[ユーザー名]は必ず入力します。必要であれば[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これでWindows MeへのMフレッツ用ドライバのインストールは完了です。このあと103ページ「設定ユーティリティのインストール」へ進んでください。

MEMO インターネットへの接続やネットワークで共有したデータのやり取りなどには、ご使用の環境に合わせたネットワーク設定が必要です。40ページより「ピア・ツー・ピアによるネットワーク設定」に設定例を掲載しています。

5 Windows 2000でのセットアップ

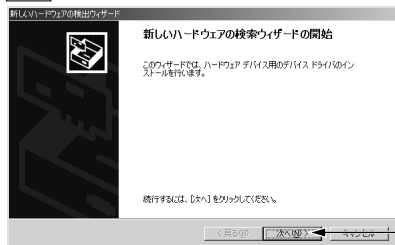
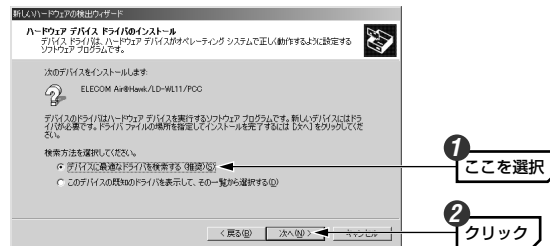
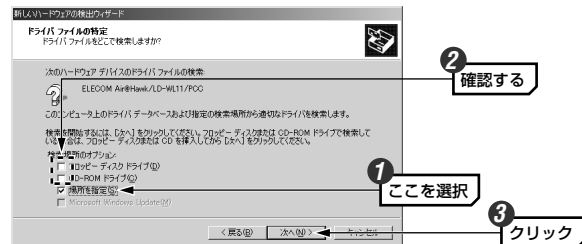
Laneed

本製品を使用するには、はじめにドライバのインストールが必要です。Mフレッツ用ドライバをインストールする場合は、必ずこのあとの説明に従ってインストールしてください。インストールを始める前に80ページ「ドライバインストール時の注意事項」を必ずお読みください。

1 本製品をPCカードスロットからはずした状態でWindowsを起動します。

2 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。ドライブの読み込みランプが消灯するのを待ちます。

3 本製品をPCカードスロットに差し込みます。新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されます。

4 次へ ボタンをクリックします。

5 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

6 「場所を指定」を選択し、次へ ボタンをクリックします。このとき、他のチェックボックスがオンになっている場合はすべてオフにします。

・他のチェックボックスがオンになっていると、間違ったドライバがインストールされます。

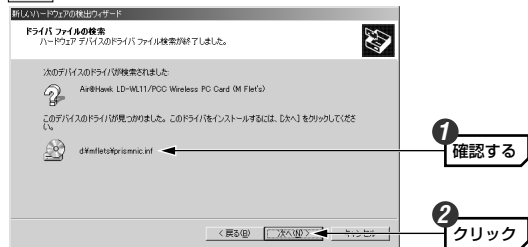
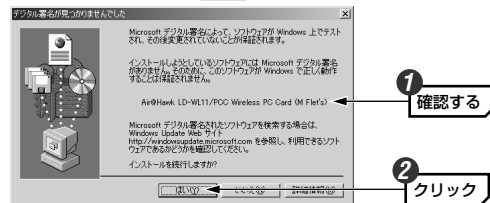
7 ドライバ情報ファイルの場所を指定します。CD-ROMを入れたドライブの「mflets」ディレクトリ(フォルダ)を指定します。

(例)CD-ROMディスクの入ったドライブがDドライブの場合

```
D:¥mflets
```

大文字/小文字どちらでもかまいません。

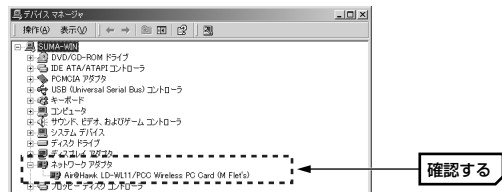
・参照 ボタンから選択する場合は「mflets」ディレクトリの「prismnic.inf」を選択してください。

8 見つかったドライバ名に「mflets¥prismnic.inf」と表示されていれば、次へ ボタンをクリックします。

9 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されます。ドライバ名に「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card(M Flet's)」と表示されていることを確認し、はい ボタンをクリックします。

・インストールを続行します。

LD-WL11/PCCにはMフレッツに対応しない標準ドライバとMフレッツ用ドライバの2種類があります。「(M Flet's)」と表示されていることを確認してください。

10 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されますので、完了 ボタンをクリックします。

11 デスクトップ画面の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

12 【ハードウェア】タブの デバイスマネージャ ボタンをクリックします。「ネットワークアダプタ」の + をクリックし、「Air@Hawk LD-WL11/PCC Wireless PC Card(M Flet's)」が表示されることを確認します。

これでWindows 2000へのMフレッツ用ドライバのインストールは完了です。このあと103ページ「設定ユーティリティのインストール」へ進んでください。

インターネットへの接続やネットワークで共有したデータのやり取りなどには、ご使用の環境に合わせたネットワーク設定が必要です。50ページより、Windows 2000でのネットワーク設定例を掲載しています。

6 設定ユーティリティのインストール

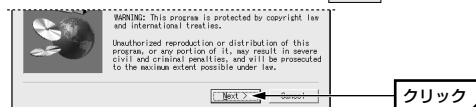
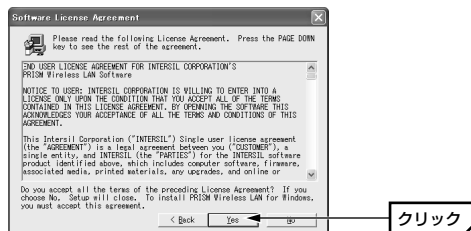
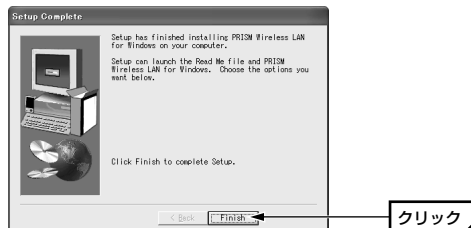
本製品をMフレッツで使用するにはMフレッツ用の設定ユーティリティをインストールする必要があります。なお、説明の画面にはWindows XPを使用していますが他のOSでも手順は同じです。

1 付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

2 マイコンピュータなどを使ってCD-ROMディスクの内容を表示します。「mflets」フォルダにある「prism_ForWindows(.exe)をダブルクリックします。

・インストーラが起動します。

3 〈PRISM Wireless LAN Driver for windows-Welcome〉画面が表示されますので、 Continue ボタンをクリックします。

4 〈Welcome〉画面が表示されますので、 Next ボタンをクリックします。

5　〈Software License Agreement〉画面が表示されます。Yes ボタンをクリックします。

6　〈Setup Complete〉画面が表示されれば、Finish ボタンをクリックします。

MEMO　アンインストールするときは
[スタート]→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]で「Intersil PRISM Wireless LAN for Windows」を選択し、[変更と削除]を実行します。

7 無線LANに接続する

無線LANが使用できるように設定ユーティリティの基本的な項目を設定します。

接続作業の前に

●Network Name(ESS ID)の設定について

本製品はNetwork Name(ESS ID)が「ANY」の状態で出荷されています。この場合はご使用になっている無線LANグループのESS IDに関係なく、近接の無線LANに自動的に接続することができます。ただし、近接する場所に複数の無線LANがある場合、間違った接続先につながる可能性がありますので、無線LANでの接続を確認できたあとはESS IDをご使用になっている無線LANグループのESS IDに変更することをお勧めします。

●本製品からアクセスポイントを設定する場合

本製品から無線LANを使ってアクセスポイントのユーティリティを設定する場合は、本製品の設定ユーティリティの設定を初期値のままにしてアクセスポイントに接続してください。アクセスポイントのESS IDなどを設定する前に本製品のESS IDを変更してしまうとアクセスポイントに接続できなくなります。先に変更してしまった場合は【Configuration】タブの Defaults ボタンで初期値に戻してください。

無線LANの基本設定

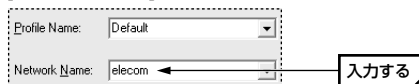
無線LANには2つの通信モードがあります。ご使用になる環境がどちらの通信モードになるかを確認してから操作手順をお読みください。

インフラストラクチャ・モード	無線LANのアクセスポイントまたは無線ルータを経由してデータのやり取りをします。
アドホック・モード	アクセスポイント等を使用せず、無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接データのやり取りをします。

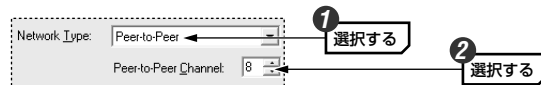
1 タスクトレイにある設定ユーティリティアイコンをダブルクリックします。

・〈設定ユーティリティ〉画面が表示されます。
・無線LANに接続できていない状態ではアイコンは赤く表示されます。

2 【Configuration】タブを選択します。

3 [Network Name]にESS IDを入力します。

・インフラストラクチャ・モードの場合は、アクセスポイントで設定したESS IDを入力します。
・アドホック・モードの場合は、半角英数字のESS IDを決めて入力します。同じ無線LANグループで使用する無線LANアダプタには、ここで設定したESS IDを同じように入力してください。
・画面は例として「elecom」と入力した場合です。

MEMO Profile Nameについて
本製品を取り付けたコンピュータを複数の接続環境で使用している場合、接続環境ごとの設定をプロファイルとして保存しておくと、環境に応じてプロファイルを変更するだけですぐに無線LANを利用できます。環境がかわるたびに設定内容をひとつひとつ変更する必要がなくなります。

4 アドホック・モードの場合は、[Network Type]で「Peer-to-Peer」を選択し、[Peer-to-Peer Channel]で使用するチャンネルを選択します。インフラストラクチャ・モードではそのまま手順 **5** へ進みます。

5 これで無線LANの基本的な設定は終わります。 OK ボタンをクリックします。

6 【Status】タブを選択します。青いインジケータが右の方向へ表示されていれば無線LANで正常に接続されています。

無線LANが正しく設定されていても、各コンピュータのネットワーク設定やインターネットへ接続する設定が終わっていないと相手の共有フォルダに接続したり、インターネットに接続することはできません。必要な設定をおこなってください。標準ドライバ編でOSごとのネットワーク設定例が説明されていますので参照してください。

8 各タブのリファレンス

Laneed

Statusタブ

【Status】タブには現在の通信状況が表示されます。また、電波の送受信を一時停止するボタンがあります。

State	現在の接続状況を表示します。接続先が見あたらない場合「Scanning」と表示されます。接続先がアクセスポイントの場合は相手のMACアドレスが表示されます。
Current Channel	現在の接続チャンネルを表示します。
Throughput	1秒間に送受信されるデータ量をバイト単位で表示します。
Link Quality Signal Strength	現在の接続状態と信号強度をパーセントとインジケータで表示します。パーセントが高いほど良好です。

●ボタンの機能

Disable Radio	本製品から電波を発信することを一時停止します。必要のないときに、一時停止することでバッテリーを節電し、不正アクセスを防ぎます。もう一度クリック(表示はEnable Radio)すると再開します。
Rescan	再スキャンして情報を更新します。

Configurationタブ

無線LANを使用するのに必要な環境を設定します。設定を変更した場合は、必ず 適用 ボタンまたは OK ボタンをクリックしてください。

MEMO **Profile Nameについて**

本製品を取り付けたコンピュータを複数の無線LANグループで使用している場合、グループごとの環境設定をプロファイルとして保存しておくと、環境に応じてプロファイルを変更するだけですぐに無線LANを利用できます。環境がかわるたびに設定内容をひとつひとつ変更する必要はありません。

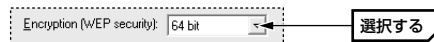
Profile Name	ご使用になる無線LANグループの環境設定を保存するための名称を入力します。
Network Name	ESS IDを指定します。初期値は「ANY」で、接続先のESS IDに関係なく接続することができます。動作確認後はご使用になる無線LANグループのESS IDに設定を変更することをお勧めします。入力できる文字は半角英数字32文字までです。大文字と小文字が区別されます。
Network Type	通信モードを指定します。インフラストラクチャ・モードの場合は「Access Point」を選択します。アドホック・モードの場合は「Peer-to-Peer」を選択します。アドホック・モードの場合はさらに、[Peer-to-Peer Channel]で使用するチャンネルを指定します。

Power Save Enabled	本製品を省電力モードで使用するとコンピュータ本体の消費電力を抑えることができます。コンピュータ本体が省電力モードに対応している場合にチェックボックスをオンにします。コンピュータ本体が省電力モードに対応していない場合はオフにしてください。間違った設定をすると認識されないなどの問題が発生する恐れがあります。
Transmit Rate	通常は「Fully Automatic」に設定しておくと、信号強度に合わせて自動的に伝送速度を調整します。信号強度が高い場合は高速に、弱い場合は低速になります。通信距離よりも通信速度を有線したい場合などは速度を固定することもできます。速度を固定した場合は、通信速度が維持できないほど信号強度が低下すると通信できなくなります。

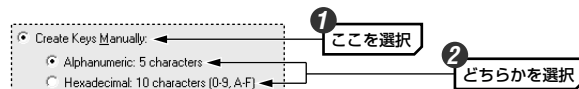
Encryptionタブ(WEPの設定)

無線LAN上でやり取りされるデータを盗聴から保護するためにWEP(Wired Equivalent Privacy)に基づいてデータを暗号化します。これにより、WEPを設定したコンピュータだけがデータを読み取れるようにします。

1 【Encryption】タブを選択します。

2 「Encryption」でWEPの種類(ビット数)を選択します。

Encryption (WEP security): 64 bit ← 選択する

64bit	64ビットで暗号化します。40ビットのWEPと互換性のある暗号化です。同じ無線LANグループの無線LANアダプタおよびアクセスポイントが40ビットしか対応していない場合はこちらを選択します。
128 bit	128ビットで暗号化します。64ビットよりも高度なセキュリティを確保できます。同じ無線LANグループの無線LANアダプタおよびアクセスポイントが128ビットの暗号化に対応している必要があります。

3 「Create Keys Manually」を選択し、キーの形式を選択します。

●キーの形式

Alphanumeric 5 characters	半角英数字(ASCIIコード)を使用することができます。全角文字や記号は使えません。大文字と小文字が区別されます。
Hexadecimal 10 Characters	半角文字の16進数を使用することができます。16進数とは0～9の数字とA～ Fのアルファベットで構成される文字列です。例えば「0C2F91A27B」のようになります。全角文字や記号は使えません。

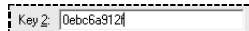
MEMO Create Keys with Passphraseについて
同じ無線LANネットワークで本製品だけを使用する場合は、こちらを選択してパスワードを入力するだけでもWEPを使用できます。

4 使用するキー番号を指定し、そのキー番号にキーを入力します。

64bitでAlphanumeric 5 charactersの場合

Key 1:
Key 2: akiba
Key 3:
Key 4:
Use WEP Key: 2

64bitでHexadecimal 10 CharactersでKey 2に入力した例

Key 2: 0ebc6a912f

入力するべき半角英数字または16進数は次のとおりです。

	半角英数字を選択した場合	16進数を選択した場合
40bit/64bit	半角英数字 5文字	10文字の16進数
128bit	半角英数字 13文字	26文字の16進数

・文字数および桁数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。

使用する暗号キーのキー番号を選択します。同じ無線LANグループの無線LAN機器(無線ルータ/アクセスポイント/無線LANアダプタなど)は、すべて同じキー番号を使用するように設定してください。

入力した文字列は 適用 および OK ボタンをクリックすると表示されなくなります。メモするなどして忘れないようにしてください。

5 **すべての設定が終われば、適用 または OK ボタンをクリックします。**

・OK ボタンをクリックした場合は画面が閉じます。

これでこのコンピュータのWEPの設定は完了です。データのやり取りをするすべてのコンピュータおよびアクセスポイントに同じWEPを設定をします。

Aboutタブ

本製品のドライバ、設定ユーティリティ、ファームウェアのバージョンを表示します。各種アップデートの参考になります。

Chapter 4

付　録　編

本製品が正常に動作しないときの対処方法やサポートサービス、基本仕様について説明しています。

無線LAN関係のトラブル

●無線LANがつながらない。

①本製品のドライバは正常に動作していますか。デバイスマネージャで本製品が正常に動作していることを確認してください。標準ドライバの場合は「Air@Hawk Laneed LD-WL11/PCC Wireless PC Card」、Mフレッツ用ドライバの場合は「Air@Hawk Laneed LD-WL11/PCC Wireless PC Card (M Flet's)」と表示されます。ドライバ名が見つからない場合や×や!マークが付いている場合は正常に動作していません。各OSのドライバインストールの説明の最後に確認方法を説明していますので参照してください。×や!マークが付いていたり、ネットワークアダプタ以外の場所に本製品が登録されている場合は、デバイスマネージャ上で本製品を選択し、削除してください。再起動後、もう一度ドライバのインストールをやり直してください。

②通信モードを正しく設定していますか。設定ユーティリティのインフラストラクチャ・モードかアドホック・モードかご使用にある通信モードが正しく設定されているかを確認してください。無線LANアダプタだけで通信する場合はアドホック・モードを選択し、アクセスポイント(無線ルータ)経由で通信する場合はインフラストラクチャ・モードを選択します。

③ネットワーク設定で、実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか。プロトコル(TCP/IPなど)、クライアント(Microsoft Networkクライアントなど)、サービス(Microsoft Network共有サービスなど)を環境に応じて設定する必要があります。また、Windows 2000などではユーザーアカウントや共有フォルダのアクセス権の設定など、各種セキュリティの設定が必要な場合があります。

④ルータなどのDHCPサーバ機能を使用せずにインターネットプロトコル「TCP/IP」を利用する場合は、各パソコンに手動でIPアドレスを割り当てる必要があります。詳しくはWindows XP➡28ページ、Windows Me/98➡42ページの「MEMO」を参照してください。Windows 2000は50ページ「ネットワークの設定例」を参考にしてください。
例としてはIPアドレスを192.168.1.11から順に「11」の部分を12,13, 14…と変えて各パソコンに割り当てます。「192.168.1」の部分は固定です。サブネットマスクは「255.255.255.0」を割り当てます。サブネットマスクは各パソコンとも同じ数値を入力します。既存のネットワークと接続する場合は、使用中の環境に合わせます。

※CATVインターネットなどでは、回線事業者からIPアドレスを指定される場合があります。その場合は指示に従ってください。

⑤本製品のESS IDとアクセスポイントなどの接続相手のESS IDが異なると、接続することができません。本製品の設定ユーティリティで確認してください。

⑥WEP設定やアクセスポイントのMACアドレスフィルタリング設定は正しいですか。WEP設定は、データをやり取りするすべてのコンピュータで同じ暗号キーを使用する必要があります。また、MACアドレスフィルタリングを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

⑦Windows XPで標準ドライバを使用する場合、OS標準のワイヤレスネットワーク接続を使用するときは、設定ユーティリティをインストールしないでください。すでにインストール済みの場合は、[スタート]→[すべてのプログラム]→[Laneed Air@Hawk]のアンインストールプログラムを実行してください。

⑧Windows XPの場合、OS標準のワイヤレスネットワーク接続が有効になっていませんか。標準ドライバでOS標準のワイヤレスネットワーク接続を使用する場合以外は、24ページの説明を参照してOS標準の機能をオフにしてください。

⑨標準ドライバでWindows NT 4.0をご使用の場合は、IRQおよびI/Oポートアドレスが他のデバイスと競合していないか確認してください。競合している場合は設定ユーティリティで競合しないように設定を変更してください。

●データの転送速度が遅い。
設定ユーティリティの伝送速度を「Auto」に設定している場合、接続先のアクセスポイント(Ad-Hocモードではコンピュータ)との距離が離れていたり、障害物があると自動的に伝送速度を遅くします。設定ユーティリティの信号レベルと電波状態を確認してください。なお、伝送速度を固定すると、指定した速度では電波が届かない場合は、電波が途切れてデータが送れなくなります。

共通のトラブル

●Connectionランプ点灯しない、点滅している。

①点灯していない場合は、PCカードスロットにしっかり差し込まれているか確認してください。また、本製品が正常に認識されているかデバイスマネージャなどで本製品のプロパティを開き、状態を確認してください。デバイスマネージャによるチェック方法は、各OSのドライバインストールの説明の最後に確認方法を説明していますので参照してください。

②点滅している場合は、接続相手が見つからない状態です。接続相手のアクセスポイント等の電源が入っているかを確認してください。

●インターネットに接続できない。

①TCP/IPプロトコルが設定されているかを確認してください。〈ネットワーク〉画面でTCP/IPプロトコルが設定されているかを調べてください。見あたらない場合は、TCP/IPプロトコルを追加してください。

②DHCPサーバ機能を使用していない場合は、IPアドレスを手動で割り付けてください。TCP/IPのプロパティにある【IPアドレス】タブで設定します。詳しくはWindows XP➡28ページ、Windows Me/98➡42ページの「MEMO」を参照してください。Windows 2000は50ページ「ネットワークの設定例」を参考にしてください。

③TCP/IPプロトコルの設定が正しいかを確認してください。プロバイダによって、IPアドレスを自動取得する場合と固定IPアドレスを指定する場合があります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

④プロバイダから提供された情報をすべて設定しているかを確認してください。IPアドレス以外にも、識別情報の指定などが必要なことがあります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークコンピュータを開くと「ネットワークを参照できません。」というエラーが表示される。
正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、本製品の設定を確認し、OS側が本製品を正常に認識しているか調べてください。各OSのドライバインストールの説明の最後に確認方法を説明していますので参照してください。

Windows Me/98環境でのトラブル

●Windows 98で本製品の設定をおこなった場合にCD-ROMを要求されてしまう。

ネットワークの設定に必要なファイルは、弊社提供のドライバの他にWindows 98側で提供されるファイルも含まれています。このような場合は、表示されるメッセージに従って、Windows 98のCD-ROMをドライブにセットし、そのドライブの「WIN98」ディレクトリをパスとして指定してください。

例：CD-ROMドライブがDドライブの場合→D:¥WIN98
※Windows 98プリインストール(最初からインストールしてある)の機種に関してはパスの指定をc:¥Windows¥Options¥Cabsに変更してください。インストールできない場合は、コンピュータ本体のメーカーにおたずねください。

●Windows Me/98でネットワークに接続したが、ファイルやプリンタの共有ができない。

ネットワークには接続できて相手側へ入れるようになったが、相手側のドライブやプリンタを使用できないときは次の点を確認してください。

①[ネットワークコンピュータ]→[プロパティ]→「ネットワーク構成の一覧」に「Microsoftネットワーク共有サービス」が組み込まれているかを確認してください。
組み込まれていない場合は[ファイルとプリンタの共有]のチェックボックスを有効にして OK ボタンをクリックしてください。

②共有したいフォルダやプリンタに共有設定をおこなっているかを確認してください。共有の方法は次のようにしてください。
・共有したいフォルダやプリンタのアイコンを右クリックしてメニューを表示します。
・共有という項目を選択し、「共有しない」になっている設定を「共有する」に変更して OK ボタンをクリックしてください。

Windows 2000環境でのトラブル

●ネットワーク設定ができない。

Administrator権限でログオンしていますか。ネットワークの各種設定にはAdministrator権限がないと設定できない項目があります。

●利用者がWindows 2000をインストールしたコンピュータにアクセスできない。

①利用者が、アクセスを許可するユーザとして登録されていますか。このマニュアルの55ページを読んで登録されているか確認してください。

②利用者が共有フォルダにアクセスできるように設定していますか。また、アクセス内容を正しく設定していますか。NTFSフォーマットのハードディスクの場合は、さらにセキュリティ設定でも利用者を登録しておく必要があります。

Windows NT 4.0環境でのトラブル

●本製品が正常に動作していない。

Windows NT 4.0はプラグ&プレイに対応していません。IRQやI/Oポートアドレスなどの設定が競合する場合は、手動で競合しないように設定してください。本製品の設定ユーティリティの【ネットワーク設定】タブにある[詳細設定]でIRQとI/Oポートアドレスを変更できます。

本製品のIPアドレスを知りたいとき

A. Windows XP/2000の場合
コマンドプロンプトを表示し、「ipconfig」を実行してください。

(例)Windows XPでの実行方法
①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を選択します。
②「>」の後ろでカーソルが点滅しますので、キーボードから「ipconfig」と入力し、 Enter キーを押します。
③IPアドレス等が表示されます。

```
C:¥Documents and Settings¥user>ipconfig

Windows IP Configuration


Ethernet adapter ローカル エリア接続:

        Connection-specific DNS Suffix  . : WorkGroup
        IP Address. . . . . . . . . . . . : 192.168.1.16
        Subnet Mask . . . . . . . . . . . : 255.255.255.0
        Default Gateway . . . . . . . . . : 192.168.1.254
```

B. Windows Me/98の場合

①[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
②「名前」に「winipcfg」と入力し、 OK ボタンをクリックします。
③〈IP設定〉画面が表示されます。終了するときは、画面右上の × をクリックします。

●もし、IPアドレス、サブネットマスクなどが正常に取得できていないようであれば、 すべて書き換え ボタンをクリックします。
●IPアドレス自体が取得できない場合は、クライアントが正常にネットワークに接続されていないか、本製品のDHCPサーバ機能が「使用しない」に設定されているなどが原因として考えられます。

2 サポートサービスについて

Laneed

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報に関しては、FAX情報、インターネットでも提供しております。なお、サポートサービスを受けるためには、必ずユーザ登録をおこなってください。

●ラニード・サポートセンター

TEL：03-3444-5571　　FAX：03-3444-8205

受付時間： 月～金曜日　9:00～12:00　13:00～18:00
(夏期･年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)
※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●インターネット

http://www.elecom.co.jp

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)
559900

電話番号

東　京：03-3940-6000	大　阪：06-6455-6000
名古屋：052-453-6000	福　岡：092-482-6000
札　幌：011-210-6000	仙　台：022-268-6000
広　島：082-223-6000	

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えてご連絡ください。

保証期間内

まずは、上記のラニード・サポートセンターまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外

東京都八王子市子安町3-5-2　セキエレクトロニクス株式会社内
エレコム修理センター
電話番号　0426-31-0271　　FAX番号　0426-31-0272
受付時間　月曜日～金曜日　9:00～12:00　13:00～17:00
（ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日は除く）
※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

・このマニュアルの116ページ「こんなときは」をお読みになりましたか。まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。

・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。

・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能な場合は、コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェックできますので、解決しやすくなります。

・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳しい内容をご記入ください。

次のことをお調べください。

● **ネットワーク構成**

使用しているネットワークアダプタ:
使用しているOS:
使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番):
ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成:
ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等)：

● **具体的な現象について**

具体的な現象:
事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

3 基本仕様

商品名	11Mbps無線LAN PCカード
製品型番	LD-WL11/PCC
規格	IEEE802.11/IEEE802.11b/ARIB STD-T66/ STD-33
周波数帯域	2.412～2.4835GHz
チャンネル数	14チャンネル
伝送方式	DS-SS (直接スペクトラム拡散)方式
伝送速度	11Mbps, 5.5Mbps, 2Mbps, 1Mbps
伝送距離	11Mbps：屋内約60m / 屋外約130m 5.5Mbps：屋内約100m / 屋外約200m 1Mbpsおよび2Mbps：屋内約135m / 屋外約270m
インターフェイス	PCMCIA TypeⅡ
セキュリティ	ESS ID, WEP 64ビット(40ビット互換)/128ビット
消費電力	0.75W　5V/150mA
動作温度	0～60℃
動作湿度	20～95%(結露なきこと)
対応機種	PC/AT互換機(DOS/Vマシン)およびNEC PC98-NXシリーズでPCMCIA TypeⅡのPCカードスロットを持つ機種(自作機は除く)
対応OS	Windows XP, Windows Me, Windows 98, Windows 2000, Windows NT 4.0(Mフレッツ用ドライバは非対応)
付属品	CD-ROMディスク(1枚)、ユーザーズマニュアル、 ユーザ登録カード、保証書

無線LAN PCカード
LD-WL11/PCC
ユーザーズマニュアル
発行　エレコム株式会社
2002年7月23日　第4版